

食の安全・安心に関するアンケート実施結果
(令和4年度)

名古屋市

目次

1. 調査概要.....	3
2. 調査結果（単純集計及び男女別・年齢層別集計結果）	5

（本報告書を読むに当たっての注意点）

- ・ 調査票では、回答者に年齢を 10 歳代、20 歳代、…、70 歳代、80 歳以上の 8 択で尋ねたが、10 歳代や 80 歳以上の回答者が少なかったため、本報告書内では、10 歳代は 20 歳代と統合して「20 代以下」、80 歳以上は 70 歳代と統合して「70 代以上」と表示している。
- ・ 性別を尋ねる質問に対して「その他」と回答した者は 3 人と少なかったため、性別に分けた結果を掲載する際には、「その他」の結果は掲載せず、男女別の結果のみを掲載している。
- ・ グラフの視認性の観点から、グラフによっては数値が 0 のデータラベルを非表示にした。また、複数選択可の設問について、年齢層別の折れ線グラフでは、視認性の観点から、該当者の多かった選択肢や、特徴的な動向を示した選択肢のみを掲載している。

1. 調査概要

調査方法：自記式による質問紙調査。質問紙は郵送法により配付・回収した。

調査期間：令和4年10月17日（月）から11月16日（水）

調査対象者：18歳以上の市民の中から無作為抽出された2,000人。

回答者数：885人（回収割合：44.3%）

回答者の基本属性

回答者885人を性別にみると、男性が370人(41.8%)、女性が498人(56.3%)、その他が3人(0.3%)であった。また年齢層別にみると、70代以上が184人(20.8%)で最も多く、20代以下が84人(9.5%)で最も少なかった。居住地別にみると、緑区が101人(11.4%)で最も多く、中区が25人(2.8%)で最も少なかった。(表1、表2)

表1. 性・年齢層別にみた回答者の内訳

	全体	20代以下	30代	40代	50代	60代	70代以上	無回答
		人 (%)						
全体	885 (100.0)	84 (9.5)	102 (11.5)	165 (18.6)	172 (19.4)	166 (18.8)	184 (20.8)	12 (1.4)
男性	370 (41.8)	37 (4.2)	42 (4.7)	56 (6.3)	76 (8.6)	68 (7.7)	90 (10.2)	1 (0.1)
女性	498 (56.3)	47 (5.3)	59 (6.7)	108 (12.2)	94 (10.6)	97 (11.0)	93 (10.5)	0 (0.0)
その他	3 (0.3)	0 (0.0)	1 (0.1)	1 (0.1)	1 (0.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
無回答	14 (1.6)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.1)	1 (0.1)	1 (0.1)	11 (1.2)

表2. 居住地別にみた回答者の内訳

人 (%)								
全体	千種区	東区	北区	西区	中村区	中区	昭和区	瑞穂区
885 (100.0)	59 (6.7)	35 (4.0)	53 (6.0)	51 (5.8)	53 (6.0)	25 (2.8)	49 (5.5)	45 (5.1)
熱田区	中川区	港区	南区	守山区	緑区	名東区	天白区	無回答
28 (3.2)	80 (9.0)	52 (5.9)	55 (6.2)	63 (7.1)	101 (11.4)	67 (7.6)	58 (6.6)	11 (1.2)

調査対象者の基本属性

調査対象者（アンケートの配布対象者）の内訳は表 3、表 4 に示すとおりである。

表 3. 性・年齢層別にみた調査対象者の内訳

	全体	20代以下	30代	40代	50代	60代	70代以上
	人 (%)						
全体	2000 (100.0)	336 (16.8)	316 (15.8)	380 (19.0)	338 (16.9)	283 (14.2)	347 (17.4)
男性	995 (49.8)	167 (8.4)	161 (8.1)	204 (10.2)	165 (8.3)	134 (6.7)	164 (8.2)
女性	1005 (50.3)	169 (8.5)	155 (7.8)	176 (8.8)	173 (8.7)	149 (7.5)	183 (9.2)

表 4. 居住地別にみた調査対象者の内訳

全体	千種区	東区	北区	西区	中村区	中区	昭和区	瑞穂区
2000 (100.0)	137 (6.9)	80 (4.0)	148 (7.4)	125 (6.3)	120 (6.0)	87 (4.4)	98 (4.9)	95 (4.8)
熱田区	中川区	港区	南区	守山区	緑区	名東区	天白区	
58 (2.9)	188 (9.4)	124 (6.2)	120 (6.0)	148 (7.4)	204 (10.2)	134 (6.7)	134 (6.7)	

回収割合

回収割合を性別にみると、男性が 37.2%、女性が 49.6%であった。また年齢層別にみると、60 代が 58.7%で最も高く、20 代以下が 25.0%で最も低かった。居住地別にみると、昭和区及び名東区が 50.0%で最も高く、中区が 28.7%で最も低かった。（表 5、表 6）

表 5. 性・年齢層別にみた回収割合

	全体	20代以下	30代	40代	50代	60代	70代以上
	(%)						
全体	44.3	25.0	32.3	43.4	50.9	58.7	53.0
男性	37.2	22.2	26.1	27.5	46.1	50.7	54.9
女性	49.6	27.8	38.1	61.4	54.3	65.1	50.8

表 6. 居住地別にみた回収割合

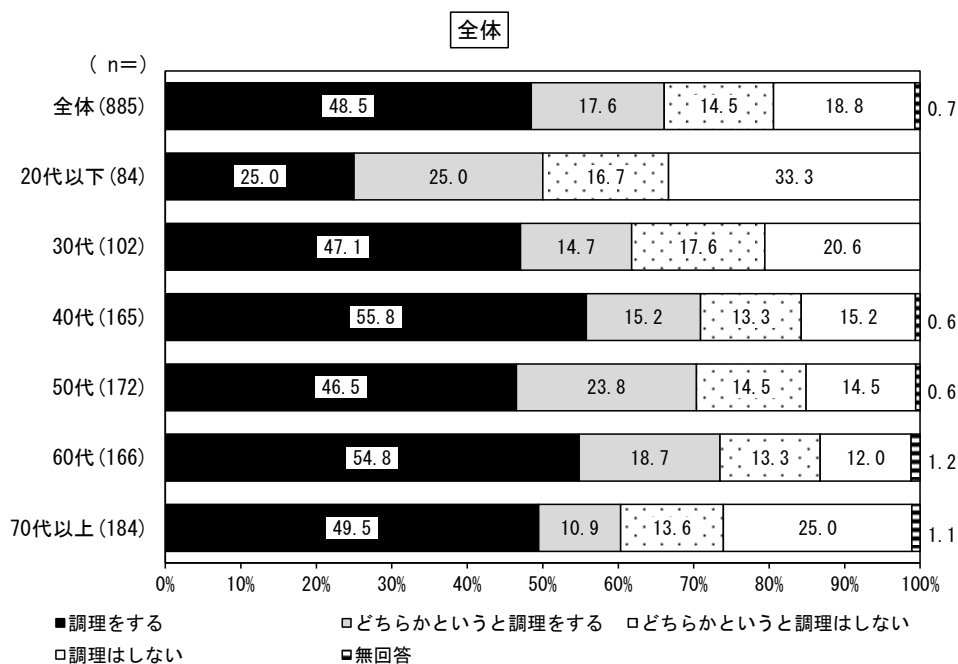
全体	千種区	東区	北区	西区	中村区	中区	昭和区	瑞穂区
44.3	43.1	43.8	35.8	40.8	44.2	28.7	50.0	47.4
熱田区	中川区	港区	南区	守山区	緑区	名東区	天白区	
48.3	42.6	41.9	45.8	42.6	49.5	50.0	43.3	

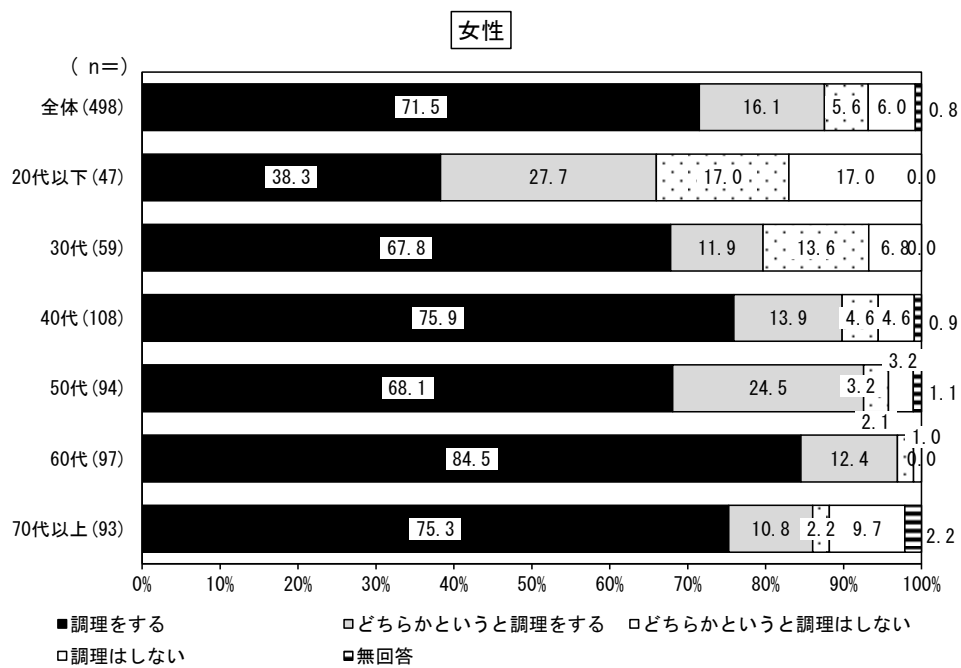
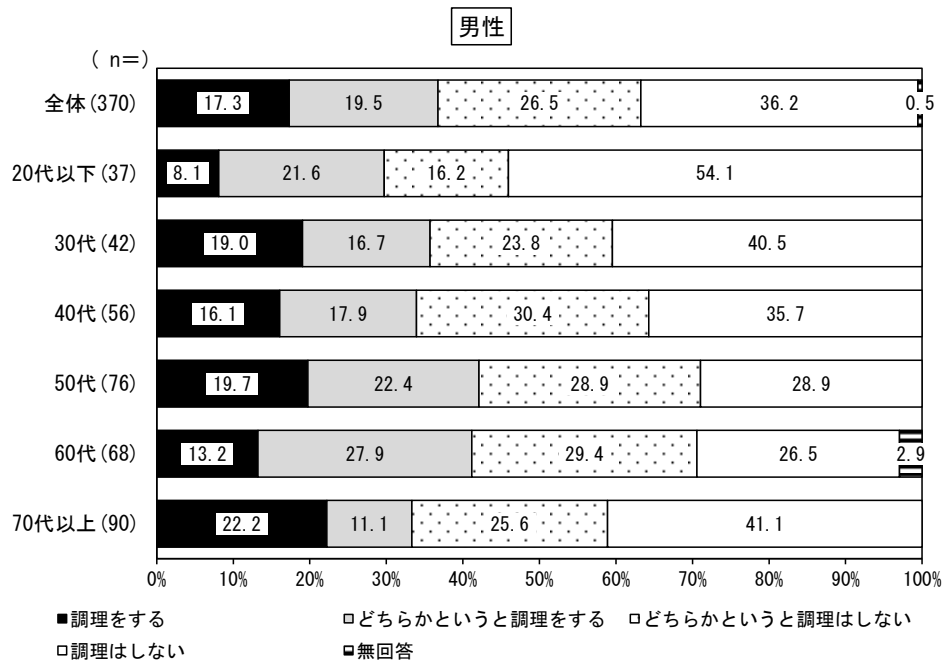
2. 調査結果（単純集計及び男女別・年齢層別集計結果）

【問1】食生活（主に夕食）に関して、あなたは食材の調理をしますか。（一つ選択）

食生活（主に夕食）に関して、食材の調理をするか尋ねたところ、「調理をする」は48.5%、「どちらかという調理をする」は17.6%であった。「調理をする」と「どちらかという調理をする」を合わせた割合（以下、“調理をする人”の割合）は66.1%であった。

男女別にみると、“調理をする人”の割合は、男性全体36.8%、女性全体87.6%であり、女性全体の方が50.8ポイント高かった。“調理をする人”の割合は、男性ではすべての年齢層で50%未満であったのに対し、女性ではすべての年齢層で50%以上であった。特に40代～70代以上の女性では、調理をする人の割合が80%以上であった。



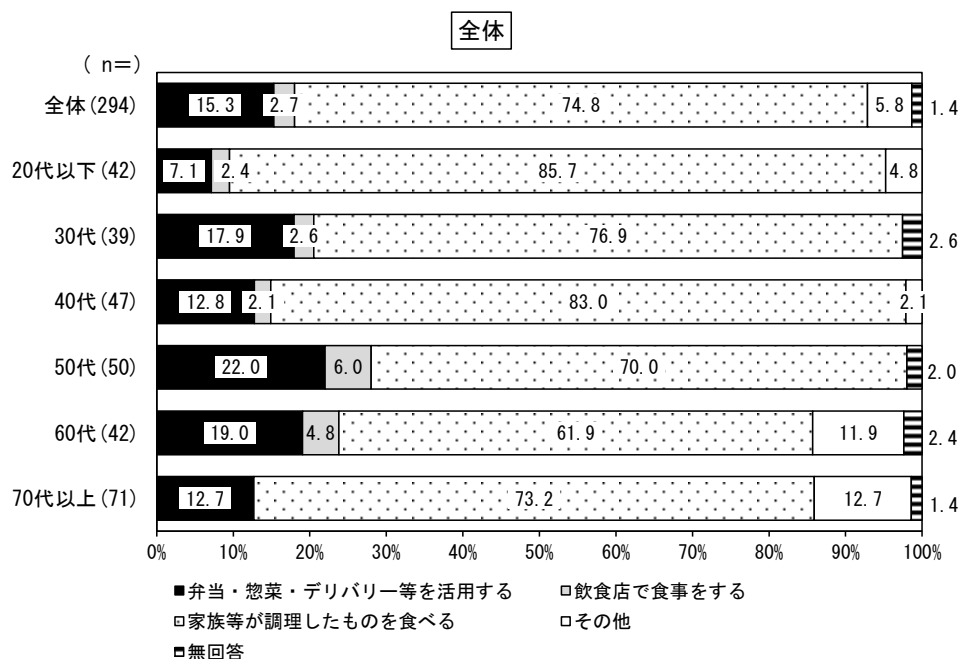


【問2】 問1で「ウ」または「エ」と回答した方にお聞きます。

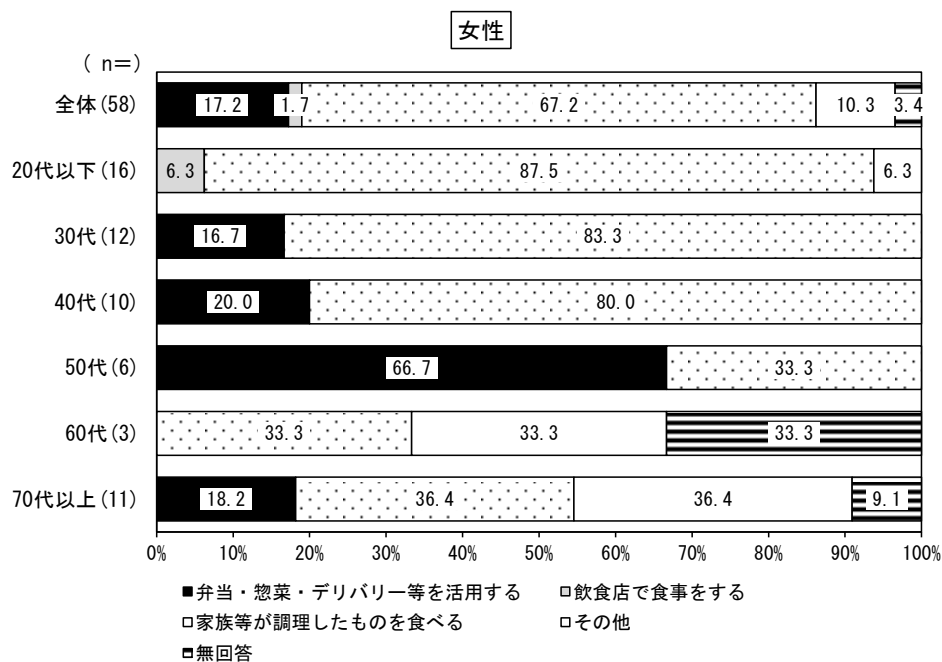
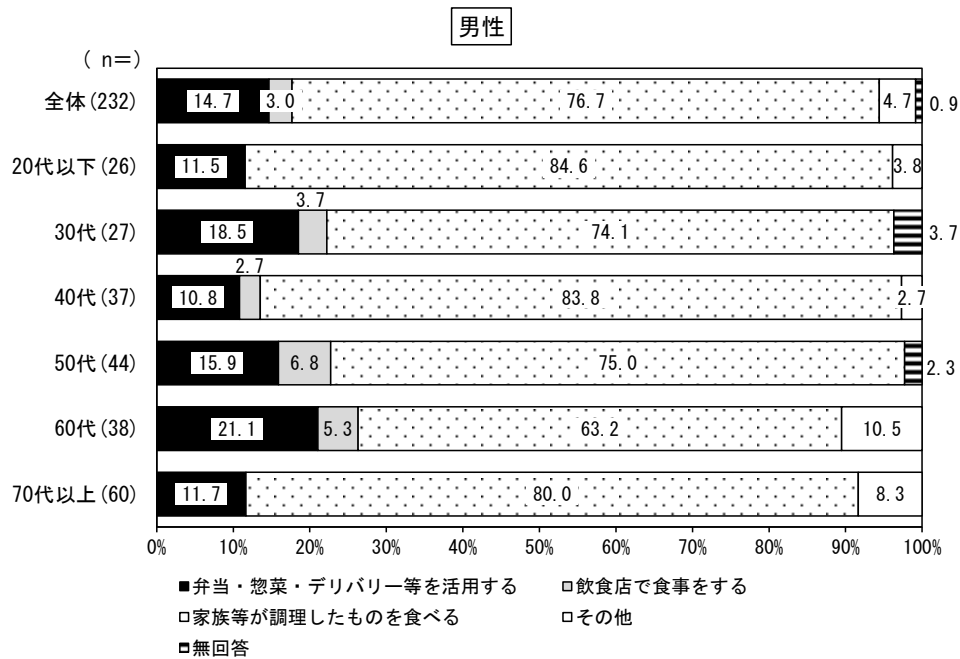
食生活（主に夕食）に関して、あなたの状況に最も近い項目は何ですか。（一つ選択）

問1で「ウ」または「エ」と回答した294人に対して、食生活（主に夕食）の状況を尋ねたところ、「家族等が調理したものを食べる」が74.8%で最も多く、以下は「弁当や惣菜を購入したり、テイクアウト・デリバリーを活用して自宅等で食事をする」が15.3%、「飲食店（食堂やレストラン等）で食事をする」が2.7%の順であった（その他及び無回答を除く）。

なお、回答者全体885人に占める割合でみた場合は、「家族等が調理したものを食べる」が24.9%、「弁当や惣菜を購入したり、テイクアウト・デリバリーを活用して自宅等で食事をする」が5.1%、「飲食店（食堂やレストラン等）で食事をする」が0.9%であった。



注) 上図では、問1で「ウ」または「エ」と回答した人のみを対象に集計している。

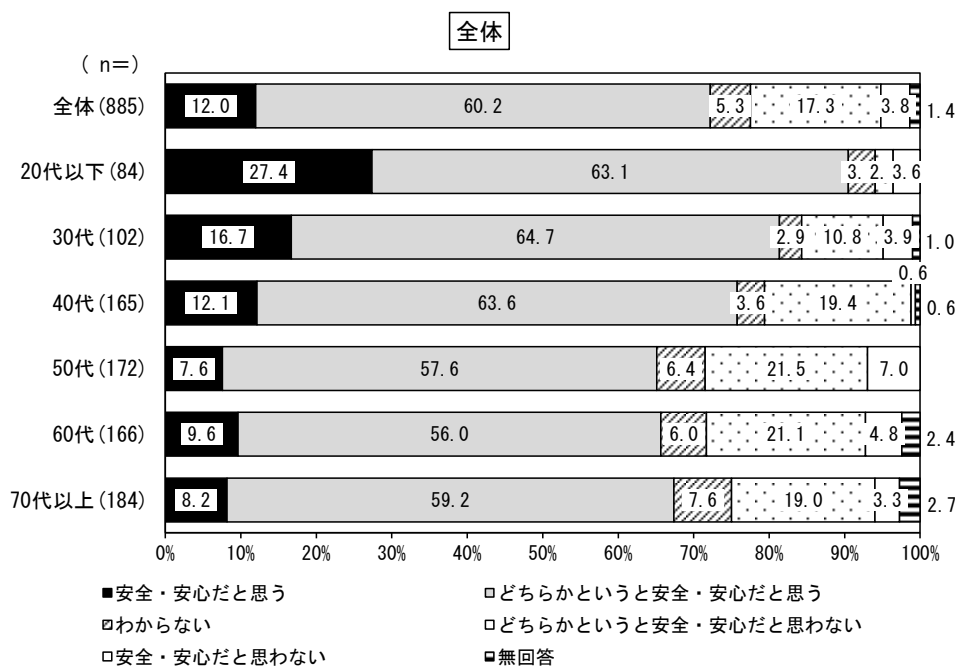


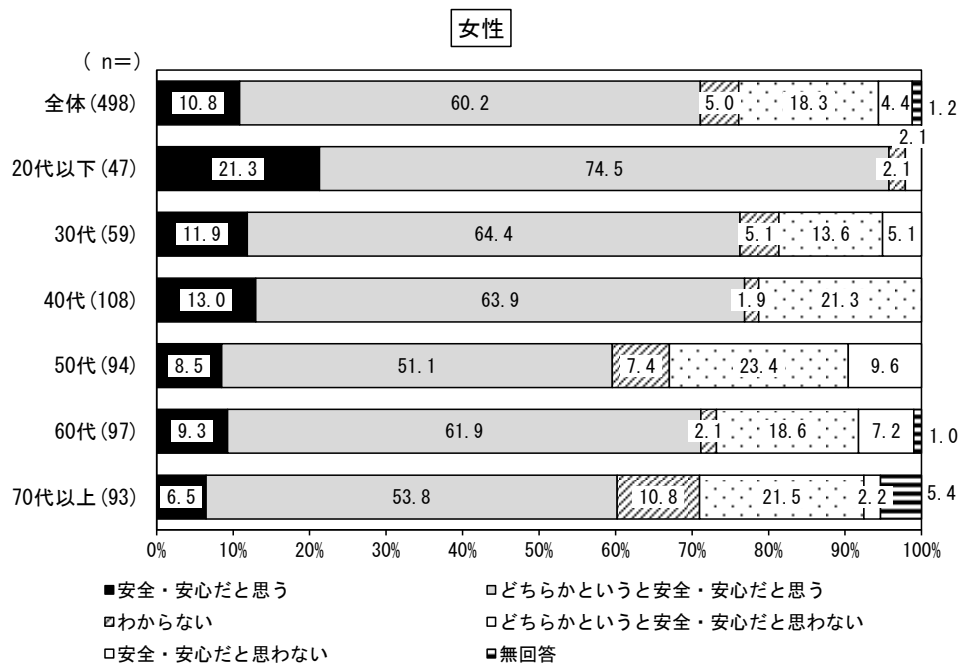
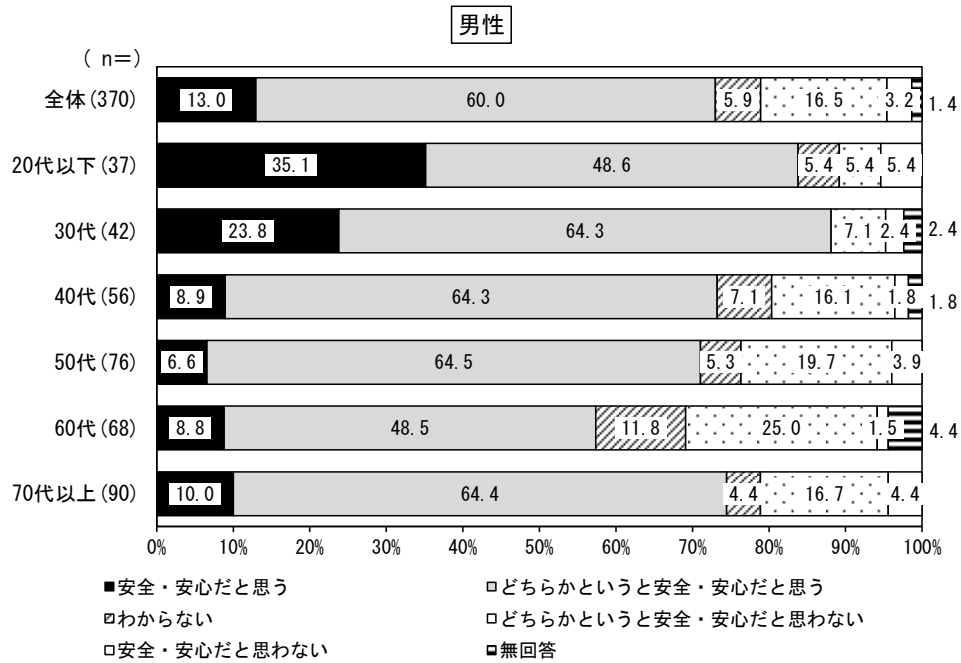
注) 上図では、問1で「ウ」または「エ」と回答した人のみを対象に集計している。

【問3】あなたは、現在流通している食品や飲食店で提供される食品は、安全・安心だと思いますか。(一つ選択)

現在流通している食品や飲食店で提供される食品は、安全・安心だと思うか尋ねたところ、「安全・安心だと思う」は12.0%、「どちらかというとき安心・安全だと思う」は60.2%、「わからない」は5.3%、「どちらかというとき安心・安全だと思わない」は17.3%、「安心・安全だと思わない」は3.8%であった。「安心・安全だと思う」または「どちらかというとき安心・安全だと思う」と回答した人の割合（以下、“安心・安全だと思う人”の割合）は、若年層で高く、20代以下では90.5%を占めた。反対に、50代～70代以上では「どちらかというとき安心・安全だと思わない」または「安心・安全だと思わない」と回答した人の割合が20%を上回った。

男女別にみると、安心・安全だと思う人の割合は、男性全体73.0%、女性全体71.1%であった。男女それぞれについて年齢層別にみると、“安心・安全だと思う人”の割合は若年層で高かった。





【問4】問3で、「ウ」または「エ」と回答した方にお聞きします。

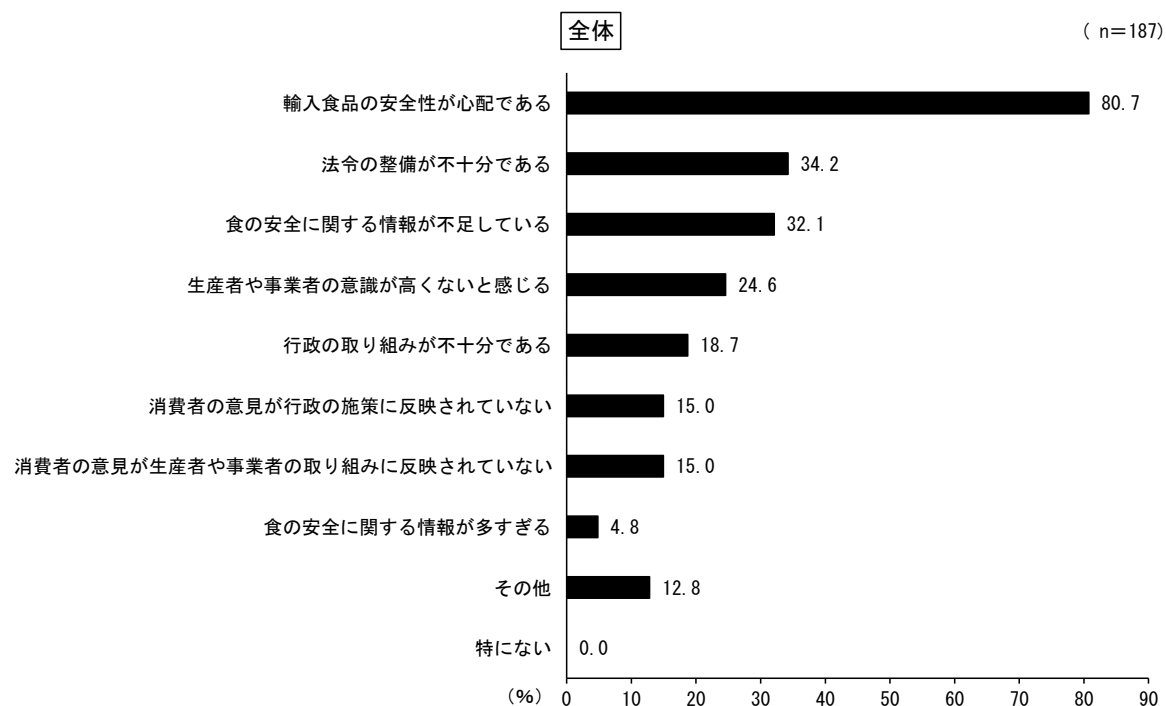
あなたが、食品が安全・安心だと思わない理由は何ですか。(複数選択可)

問3で、「ウ」または「エ」と回答した187人に対して、食品が安全・安心だと思わない理由を尋ねたところ、「輸入食品の安全性が心配である」が80.7%で最も多く、以下は「法令の整備が不十分である」が34.2%、「食の安全に関する情報が不足している」が32.1%の順であった。

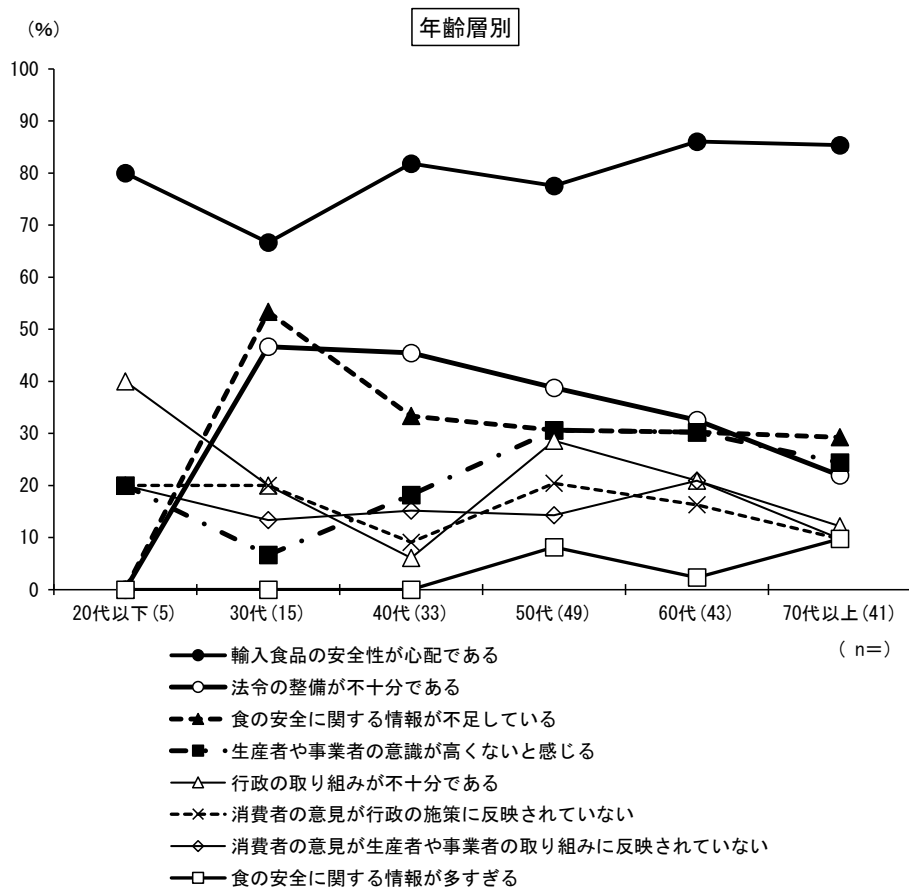
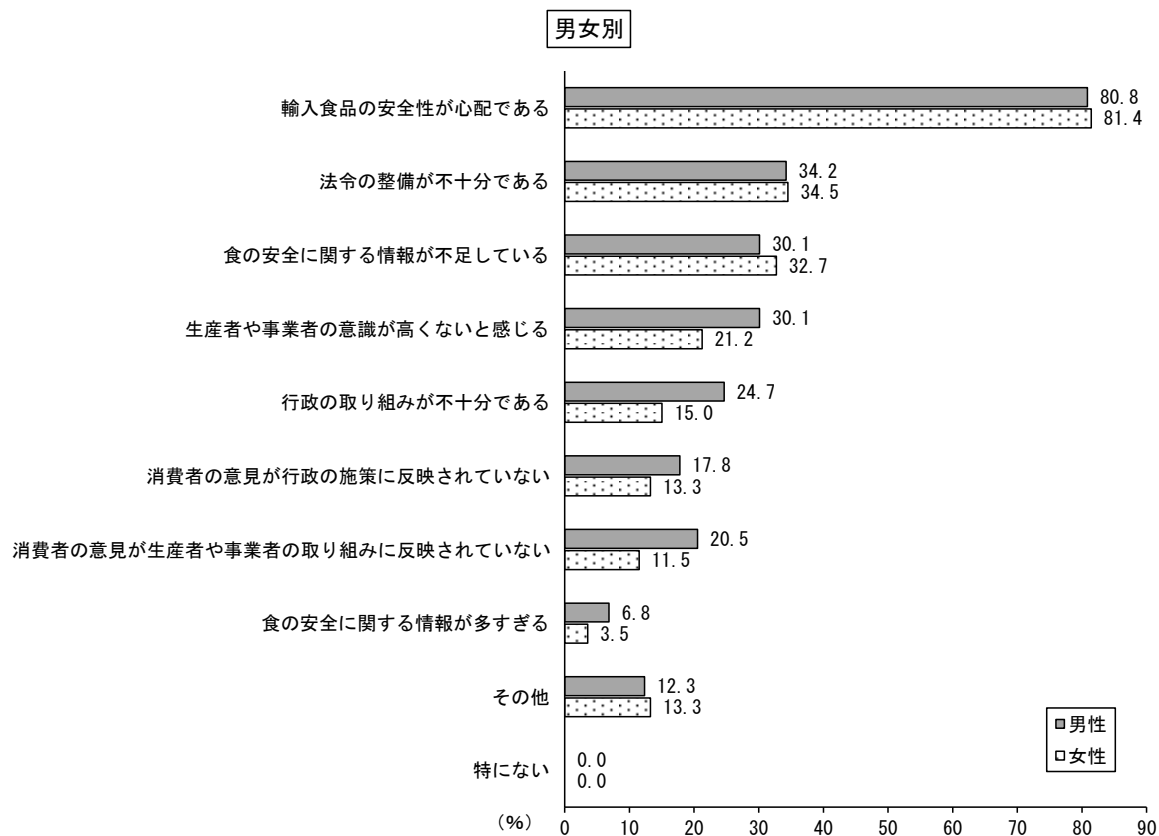
男女別にみると、男女とも「輸入食品の安全性が心配である」が最も多かった。

年齢層別にみると、すべての年齢層において「輸入食品の安全性が心配である」が最も多かった。

なお、回答者全体885人に占める割合でみた場合は、「輸入食品の安全性が心配である」が17.1%で最も高く、以下は「法令の整備が不十分である」が7.2%、「食の安全に関する情報が不足している」が6.8%であった。



注) 上図では、問3で、「ウ」または「エ」と回答した人のみを対象に集計している。



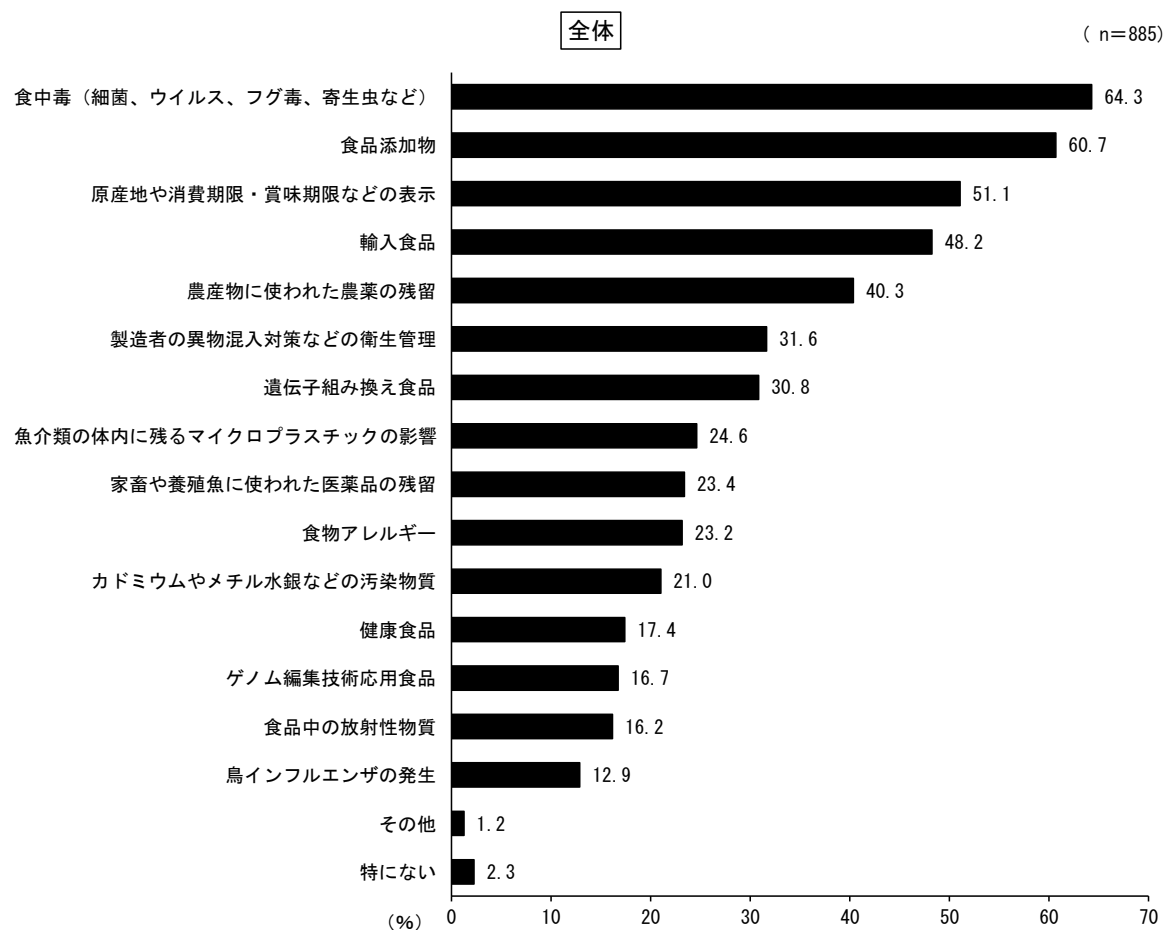
注) 上図では、問3で、「ウ」または「エ」と回答した人のみを対象に集計している。

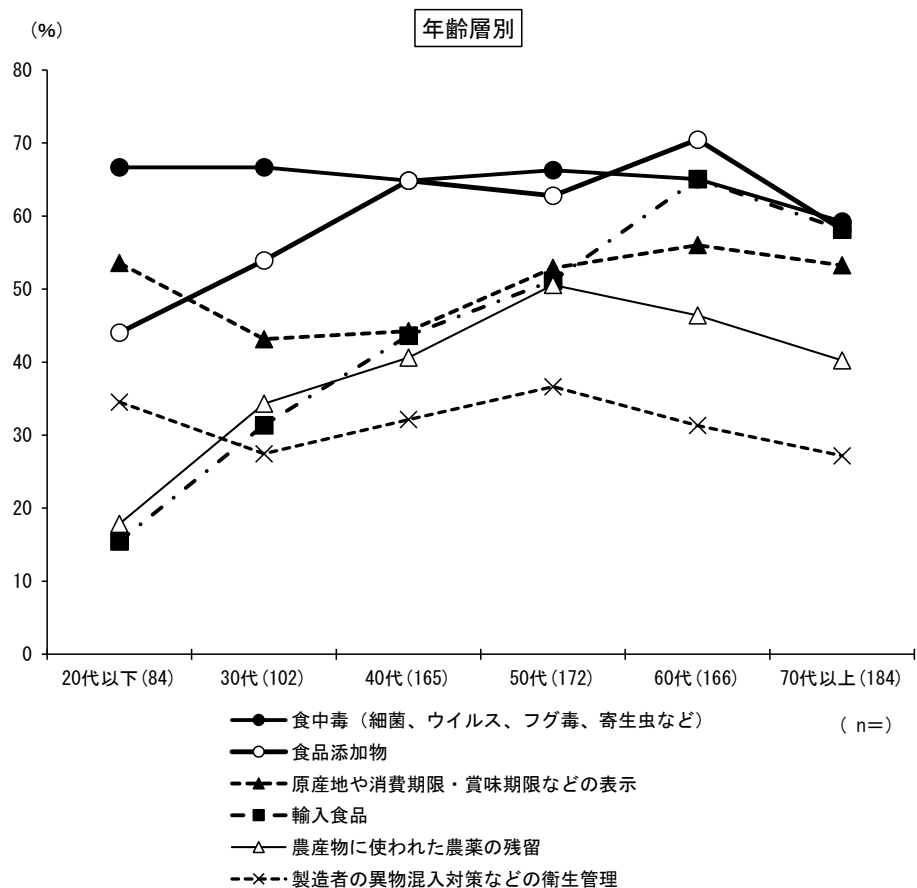
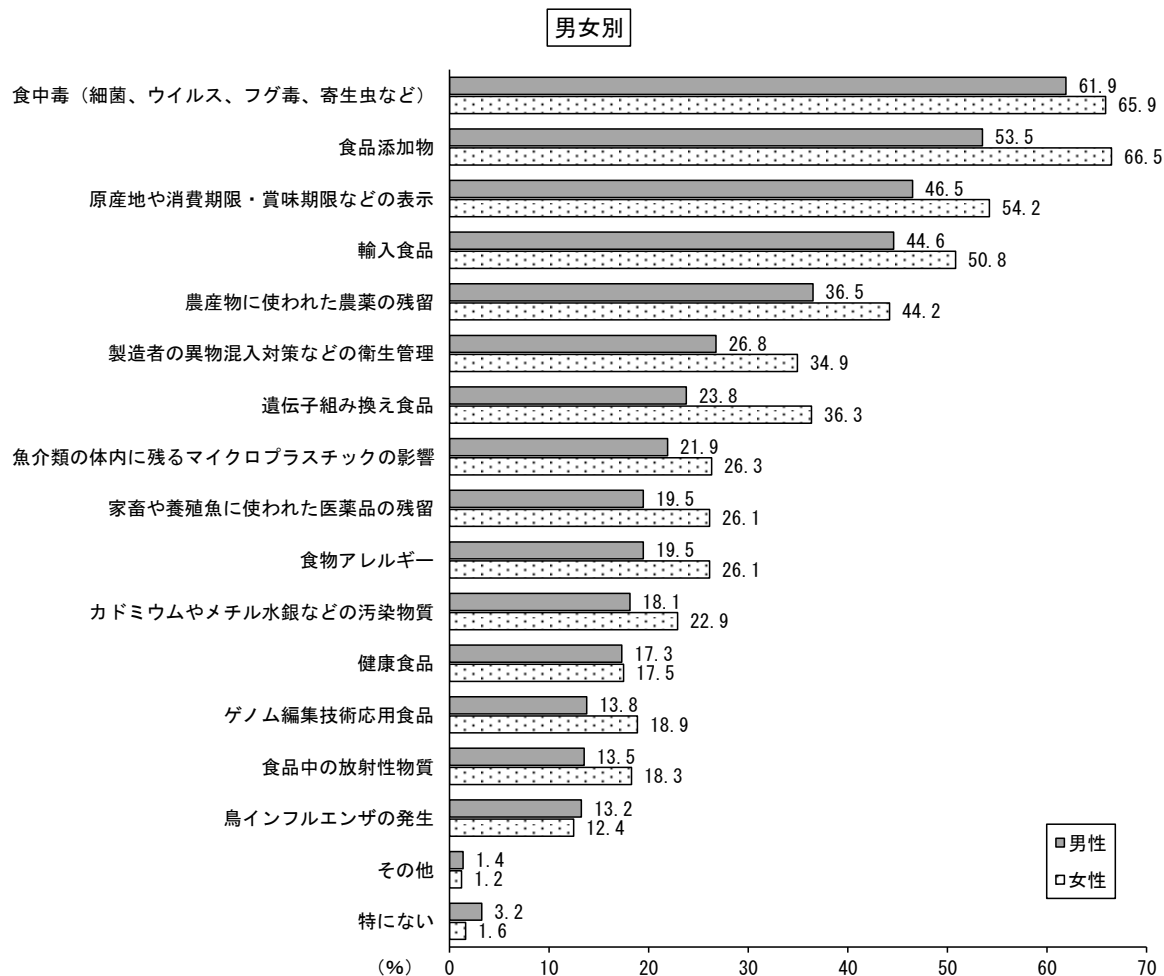
【問5】あなたが、食の安全について関心がある項目は何ですか。(複数選択可)

食の安全について関心がある項目を尋ねたところ、「食中毒」が 64.3%で最も多く、以下は「食品添加物」が 60.7%、「原産地や消費期限・賞味期限などの表示」が 51.1%の順であった。

男女別にみると、男性全体では「食中毒」が 61.9%で最も多く、以下は「食品添加物」が 53.5%、「原産地や消費期限・賞味期限などの表示」が 46.5%の順であった。女性全体では「食品添加物」が 66.5%で最も多く、以下は「食中毒」が 65.9%、「原産地や消費期限・賞味期限などの表示」が 54.2%の順であった。

年齢層別にみると、60代を除いて「食中毒」が最も多かった(40代は「食品添加物」と同率)。60代は「食品添加物」が最も多かった。「輸入食品」は60代をピークに、また「農産物に使われた農薬の残留」は50代をピークに、それぞれ高年層になるほど関心がある人の割合が高くなっていった。

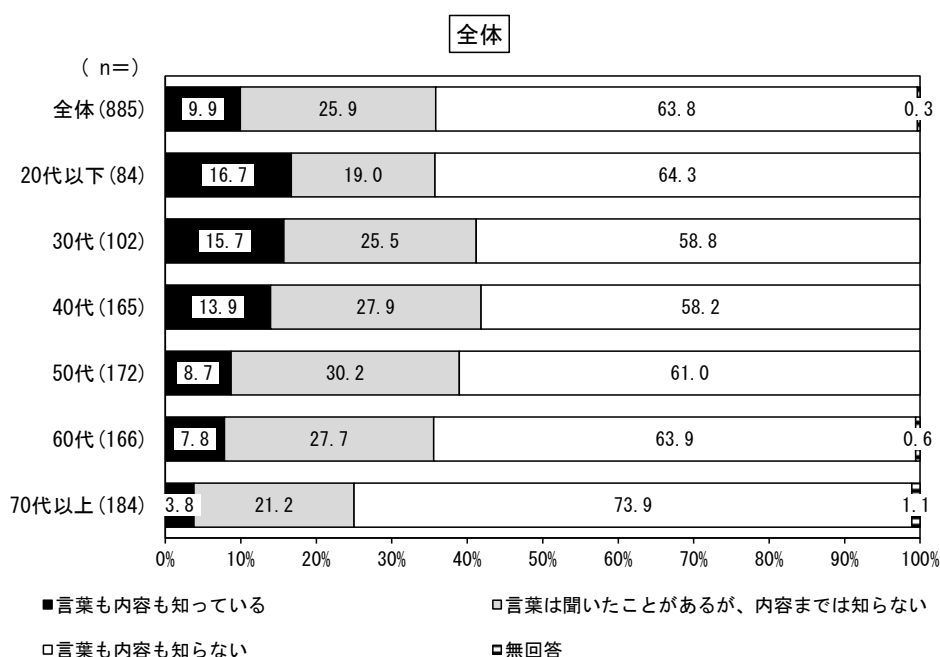


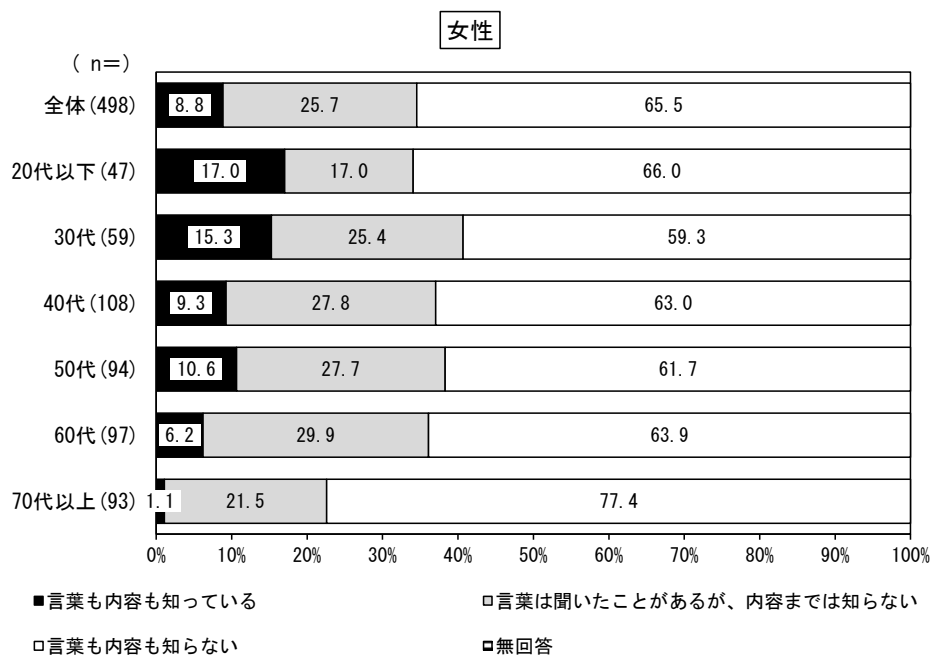
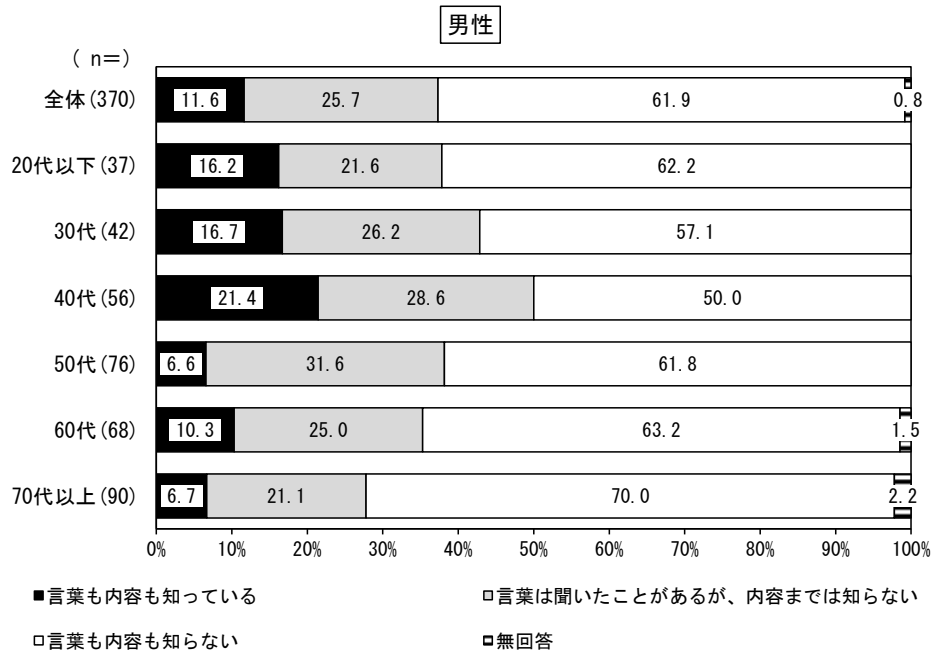


【問6】あなたは、「HACCP（ハサップ）（注3）」という言葉やその内容について知っていますか。
（一つ選択）

「HACCP」という言葉やその内容について知っているか尋ねたところ、「言葉も内容も知っている」は9.9%、「言葉は聞いたことがあるが、内容までは知らない」は25.9%、「言葉も内容も知らない」は63.8%であった。年齢層別にみると「言葉も内容も知っている」割合は、若年層ほど高くなっており、20代以下が16.7%で最も高かった。

男女別にみると、「言葉も内容も知っている」割合は、男性全体11.6%、女性全体8.8%であった。男女別にみても、若年層は高齢層と比べて「言葉も内容も知っている」割合が高い傾向がみられた。





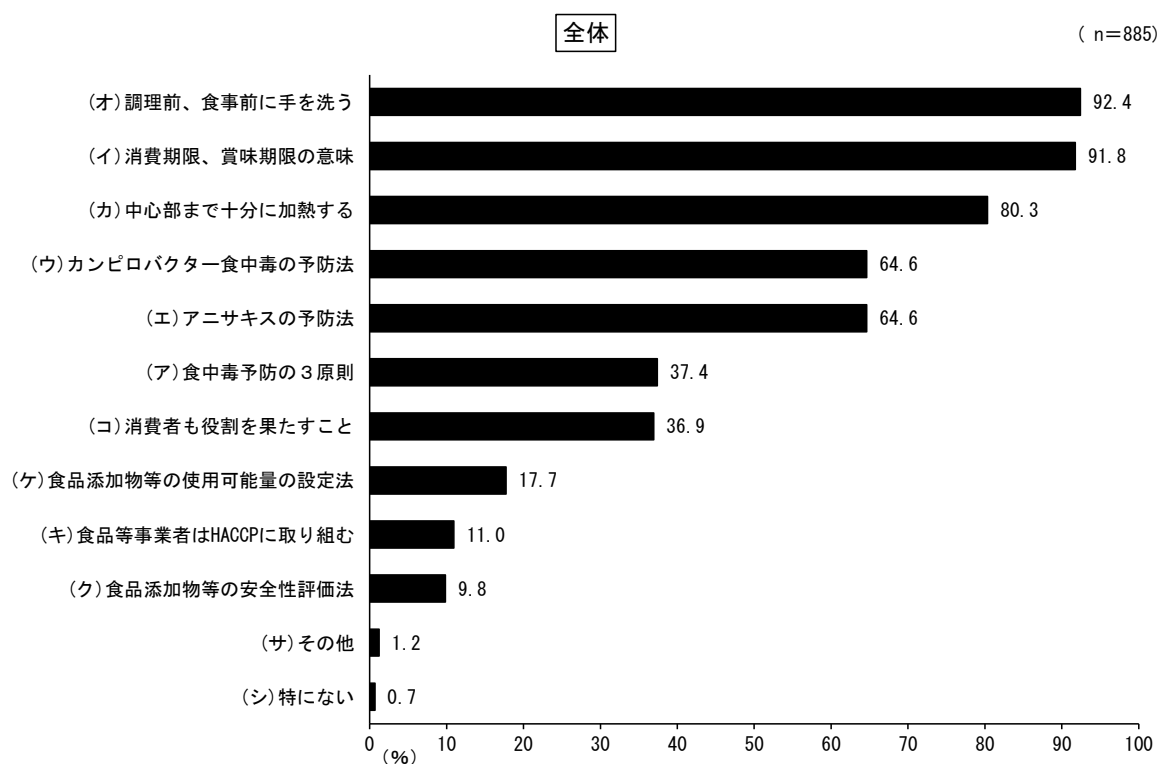
【問7】食の安全について、あなたが知っていることは何ですか。(複数選択可)

食の安全について知っていることを尋ねたところ、「調理を行う前や食事の前などには手を洗う」が92.4%で最も多く、以下は「消費期限は安全に食べられる期限、賞味期限はおいしく食べられる期限を示すものである」が91.8%、「多くの食中毒菌は熱に弱いので、加熱調理の際は中心部まで十分に加熱する」が80.3%の順であった。

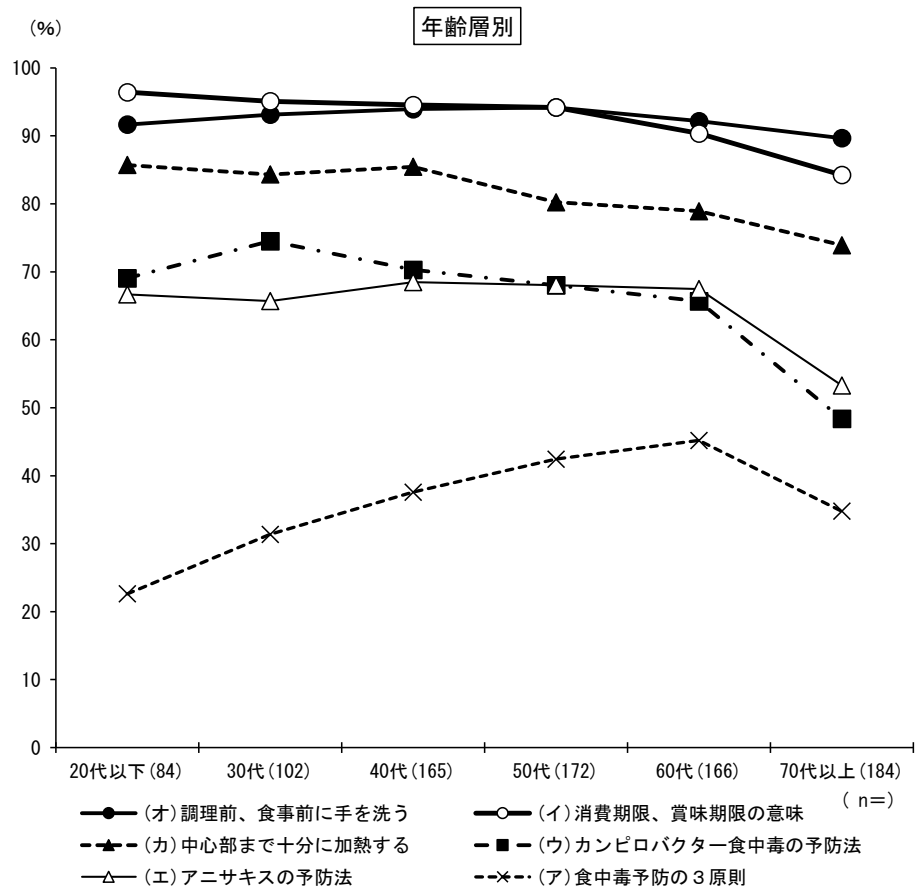
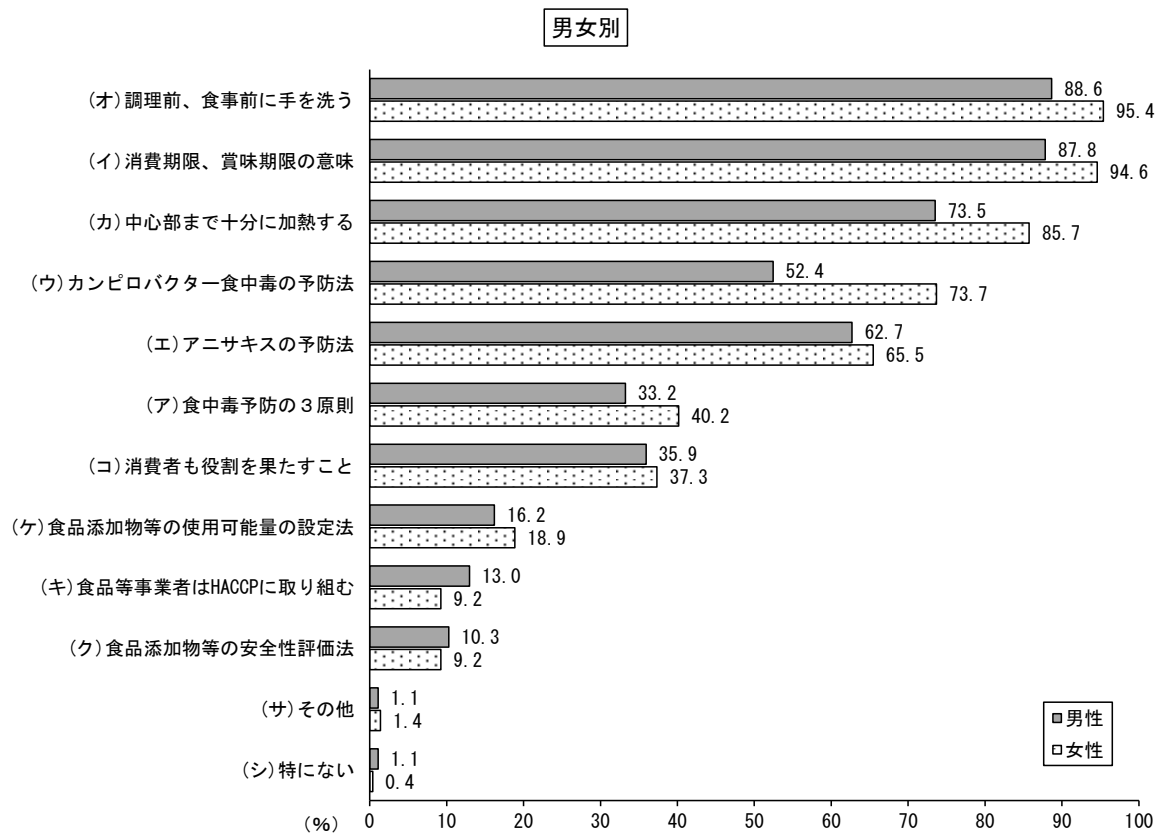
男女別にみた場合も、「(オ) 調理を行う前や食事の前などには手を洗う」が最も多く、以下は「(イ) 消費期限は安全に食べられる期限、賞味期限はおいしく食べられる期限を示すものである」、「(カ) 多くの食中毒菌は熱に弱いので、加熱調理の際は中心部まで十分に加熱する」の順であった。

年齢層別にみると、若年層では「(イ) 消費期限は安全に食べられる期限、賞味期限はおいしく食べられる期限を示すものである」が最も多く、高年層では「(オ) 調理を行う前や食事の前などには手を洗う」が最も多かった。「(ア) 食中毒予防の3原則は、食中毒菌を「つけない・増やさない・やっつける」である」を知っていた人の割合は、60代をピークに高年層ほど高くなっていった。

なお、問7は選択肢の文章が長いため、図では選択肢を省略して記載している。



注) 実際の間7は選択肢の文章が長いため、上図では選択肢の文章を省略して記載している。先頭に記載したカッコ内のカタカナは調査票の選択肢番号に対応している。正確な選択肢は調査票を参照すること。

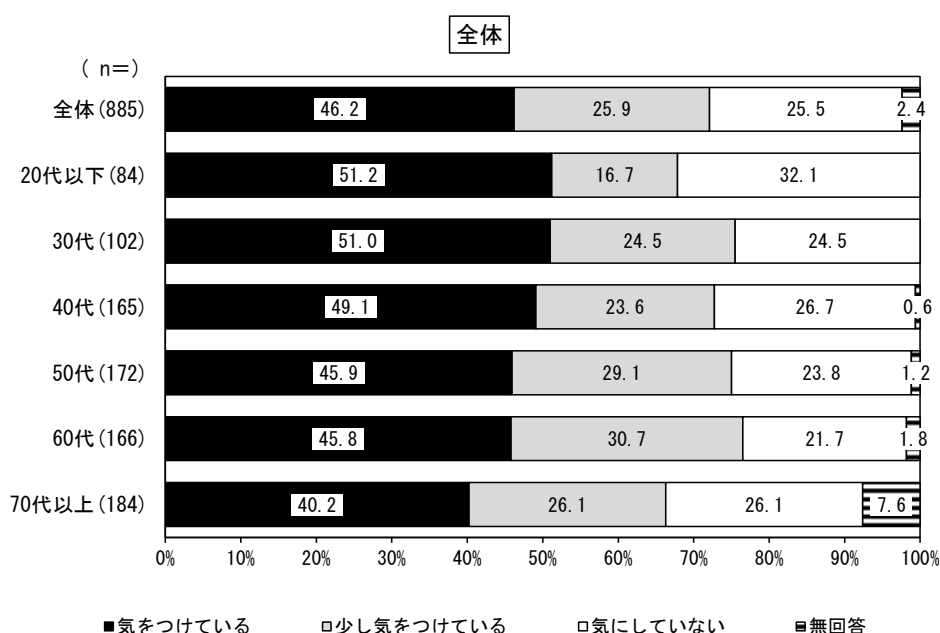


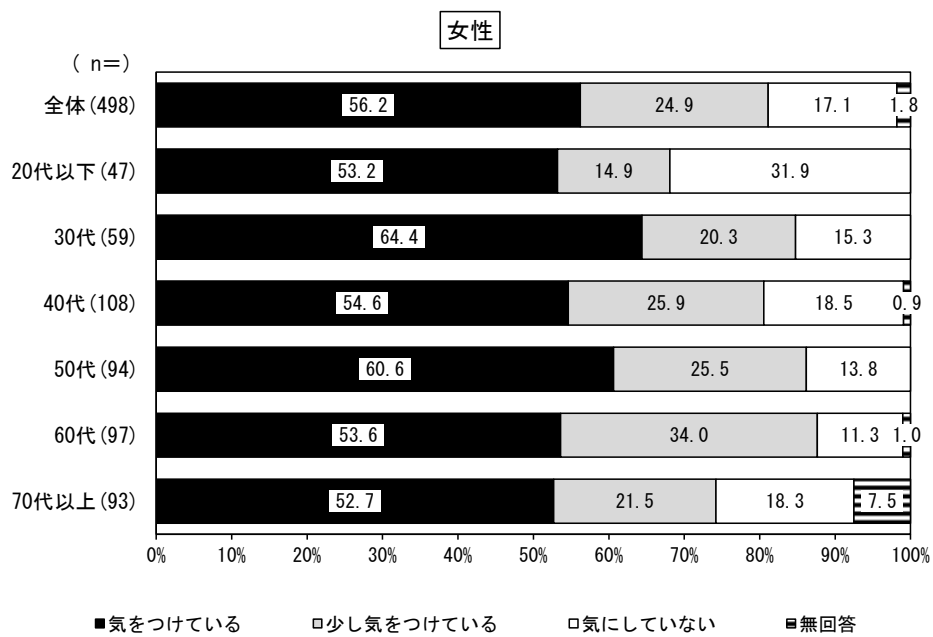
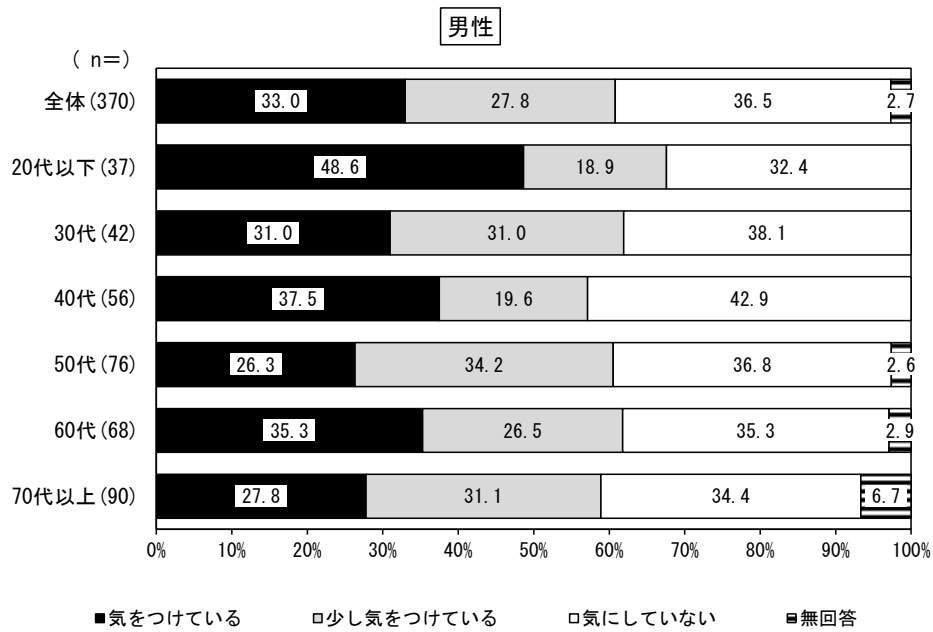
注) 実際の問7は選択肢の文章が長いため、上図では選択肢の文章を省略して記載している。先頭に記載したカッコ内のカタカナは調査票の選択肢番号に対応している。正確な選択肢は調査票を参照すること。

【問8】あなたは、カンピロバクター食中毒について気をつけていますか。(一つ選択)

カンピロバクター食中毒について気をつけているか尋ねたところ、「気をつけている」は46.2%、「少し気をつけている」は25.9%、「気にしていない」は25.5%であった。年齢層別にみると、「気をつけている」割合は、若年層ほど高くなっており、20代以下が51.2%で最も高かった。「気をつけている」と「少し気をつけている」を合わせた割合は、すべての年齢層で60%を上回った。

男女別にみると、「気をつけている」割合は、男性全体33.0%、女性全体56.2%であり、女性全体の方が23.2ポイント高かった。また、「気をつけている」と「少し気をつけている」を合わせた割合は、男性全体60.8%、女性全体81.1%であり、女性全体の方が20.3ポイント高かった。男女それぞれについて年齢層別にみた場合は、年齢層と「気をつけている」割合との間に明らかな関連はみられなかった。





【問9】問8で、「ア」または「イ」と回答した方にお聞きします。

あなたが、カンピロバクター食中毒について気をつけていることは何ですか。(複数選択可)

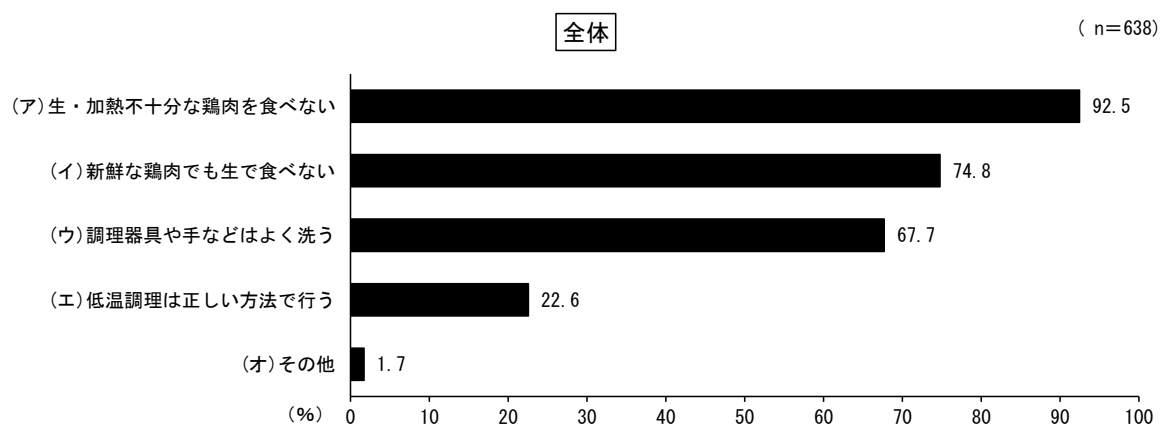
問8で、「ア」または「イ」と回答した 638 人に対して、カンピロバクター食中毒について気をつけていることを尋ねたところ、「(ア) 生または加熱不十分な鶏肉を食べないように気をつけている」が 92.5%で最も多く、以下は「(イ) 新鮮な鶏肉だとしても、生で食べないようにしている」が 74.8%、「(ウ) 鶏肉を扱った調理器具や手などはよく洗う」が 67.7%、「(エ) 低温調理をする際は、加熱温度や時間が適切に管理できる正しいレシピに従い自己流アレンジはしない」が 22.6%の順であった。

男女別にみると、男女ともに「(ア) 生または加熱不十分な鶏肉を食べないように気をつけている」割合は約 90%で最も多かった。

年齢層別にみると、「(ア) 生または加熱不十分な鶏肉を食べないように気をつけている」割合はすべての年齢層で 85%を上回った。反対に「(エ) 低温調理をする際は、加熱温度や時間が適切に管理できる正しいレシピに従い自己流アレンジはしない」割合はすべての年齢層で 30%を下回った。

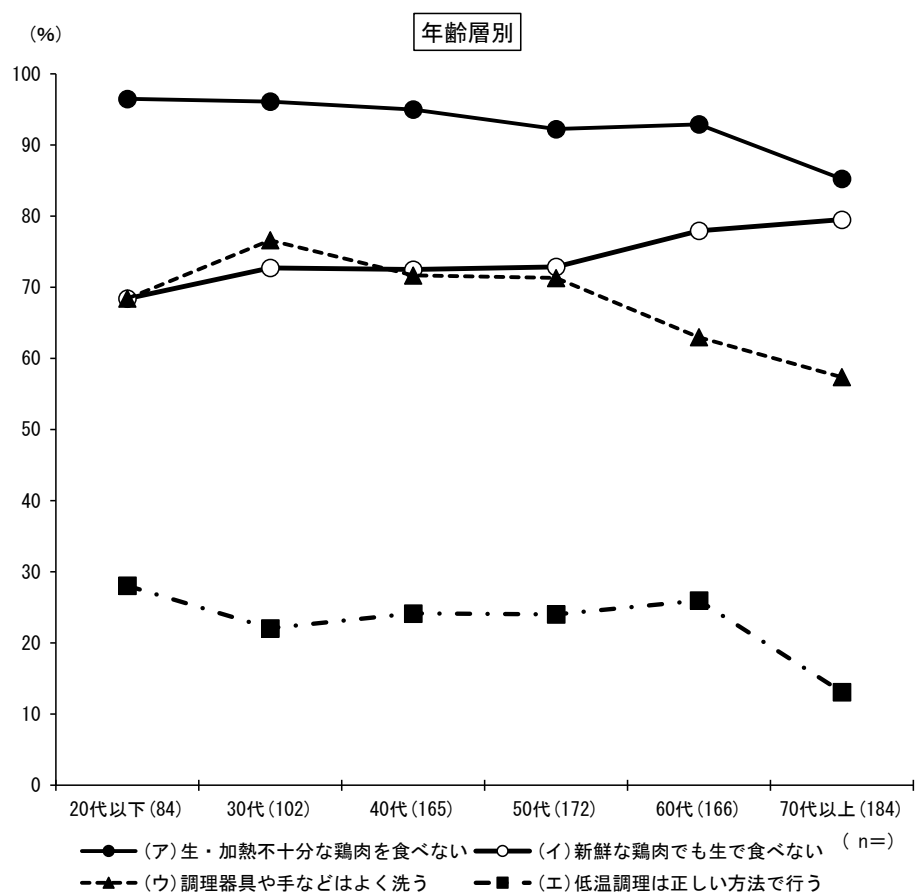
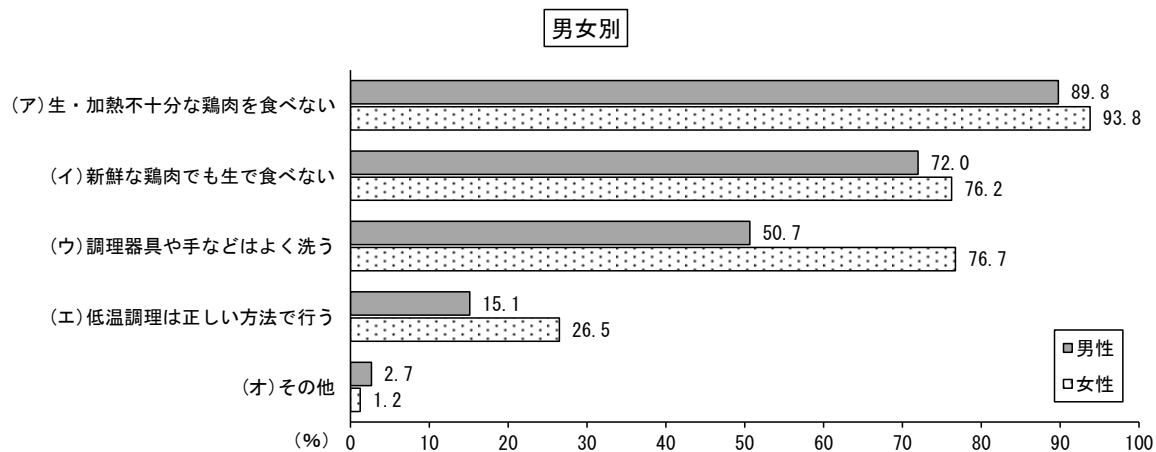
なお、回答者全体 885 人に占める割合でみた場合は、「(ア) 生または加熱不十分な鶏肉を食べないように気をつけている」が 66.7%、「(イ) 新鮮な鶏肉だとしても、生で食べないようにしている」が 53.9%、「(ウ) 鶏肉を扱った調理器具や手などはよく洗う」が 48.8%、「(エ) 低温調理をする際は、加熱温度や時間が適切に管理できる正しいレシピに従い自己流アレンジはしない」が 16.3%であった。

問9は選択肢の文章が長いため、図では選択肢を省略して記載している。



注) 上図では、問8で、「ア」または「イ」と回答した人のみを対象に集計している。

注) 実際の問9は選択肢の文章が長いため、上図では選択肢の文章を省略して記載している。先頭に記載したカッコ内のカタカナは調査票の選択肢番号に対応している。正確な選択肢は調査票を参照すること。



注) 上図では、問8で、「ア」または「イ」と回答した人のみを対象に集計している。

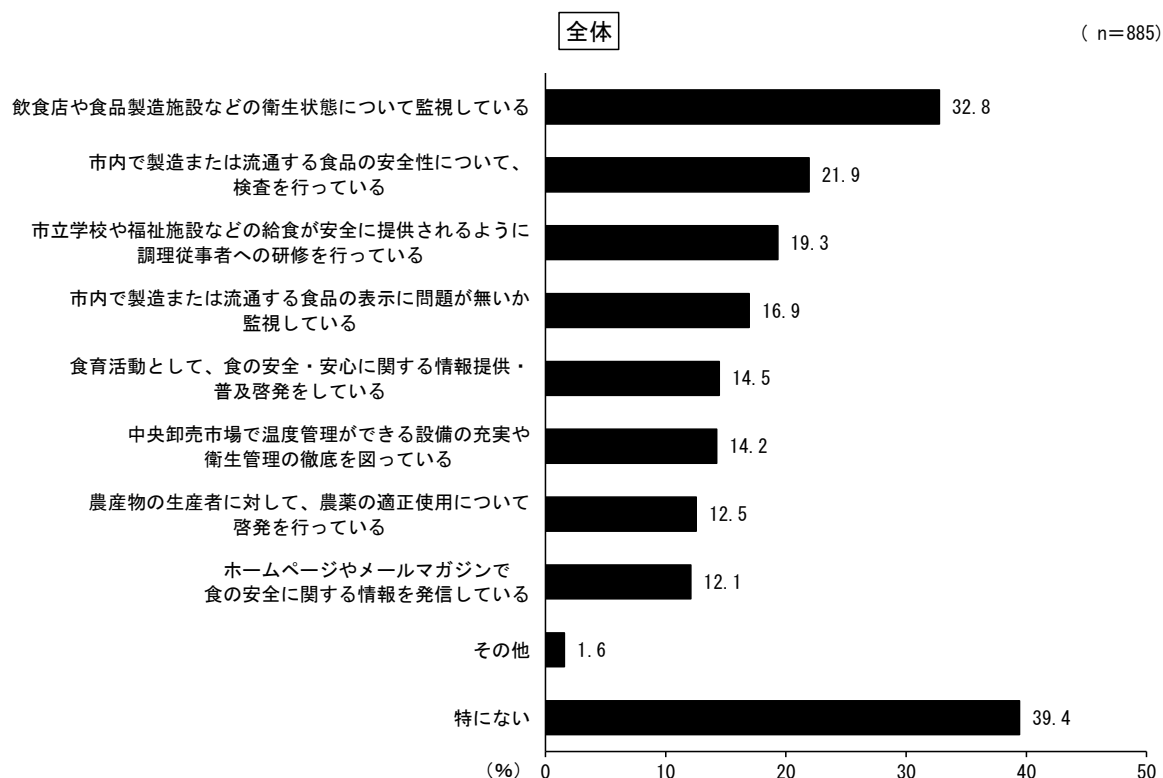
注) 実際の問9は選択肢の文章が長いので、上図では選択肢の文章を省略して記載している。先頭に記載したカッコ内のカタカナは調査票の選択肢番号に対応している。正確な選択肢は調査票を参照すること。

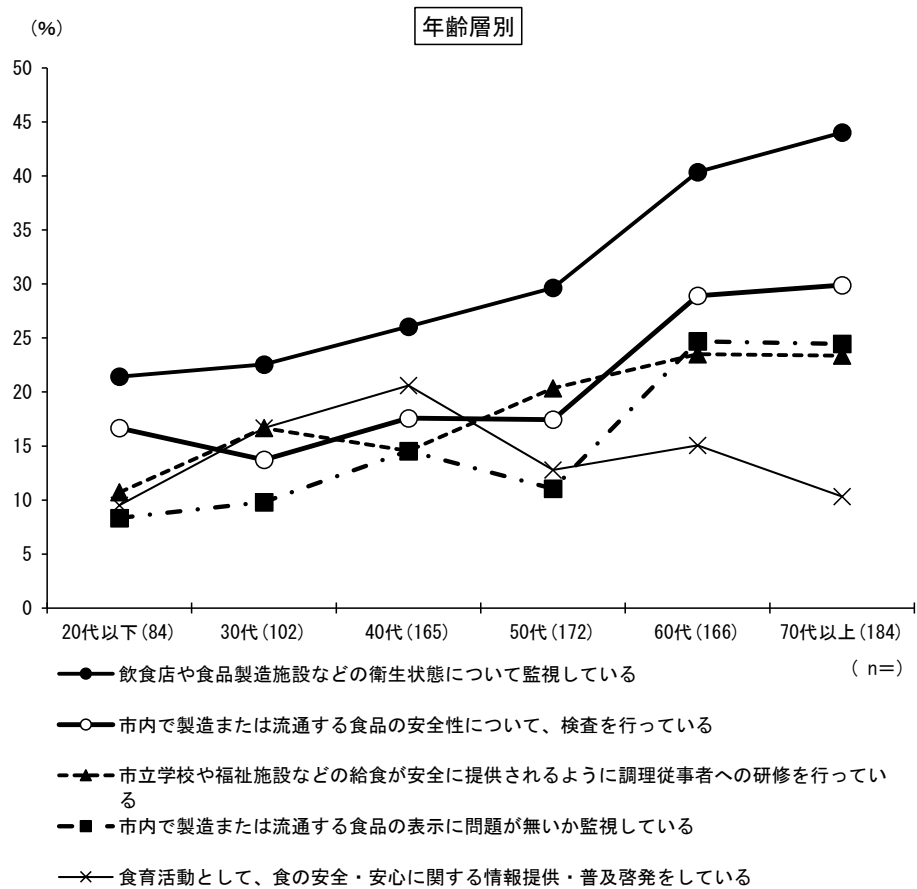
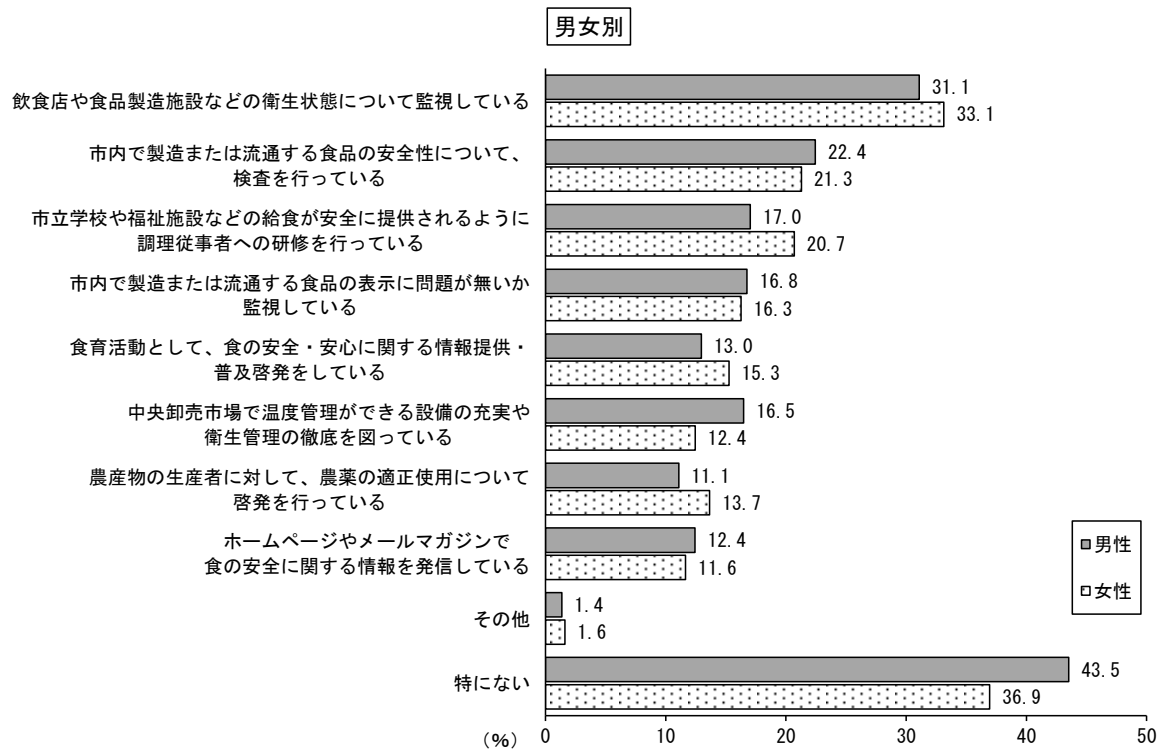
【問 10】名古屋市が食の安全・安心の確保のためにやっていることについて、あなたが知っていることは何ですか。（複数選択可）

名古屋市が食の安全・安心の確保のためにやっていることについて知っていることを尋ねたところ、「飲食店や食品製造施設などの衛生状態について監視している」が 32.8%で最も多く、以下は「市内で製造または流通する食品の安全性について、検査を行っている」が 21.9%、「市立学校や福祉施設などの給食が安全に提供されるように調理従事者への研修を行っている」が 19.3%の順であった（「特にない」を除く。以下同様）。

男女別にみると、男女とも「飲食店や食品製造施設などの衛生状態について監視している」が最も多かった。

年齢層別にみた場合も、すべての年齢層で「飲食店や食品製造施設などの衛生状態について監視している」が最も多かった。「飲食店や食品製造施設などの衛生状態について監視している」を知っている人の割合は、高年層ほど高くなっていった。



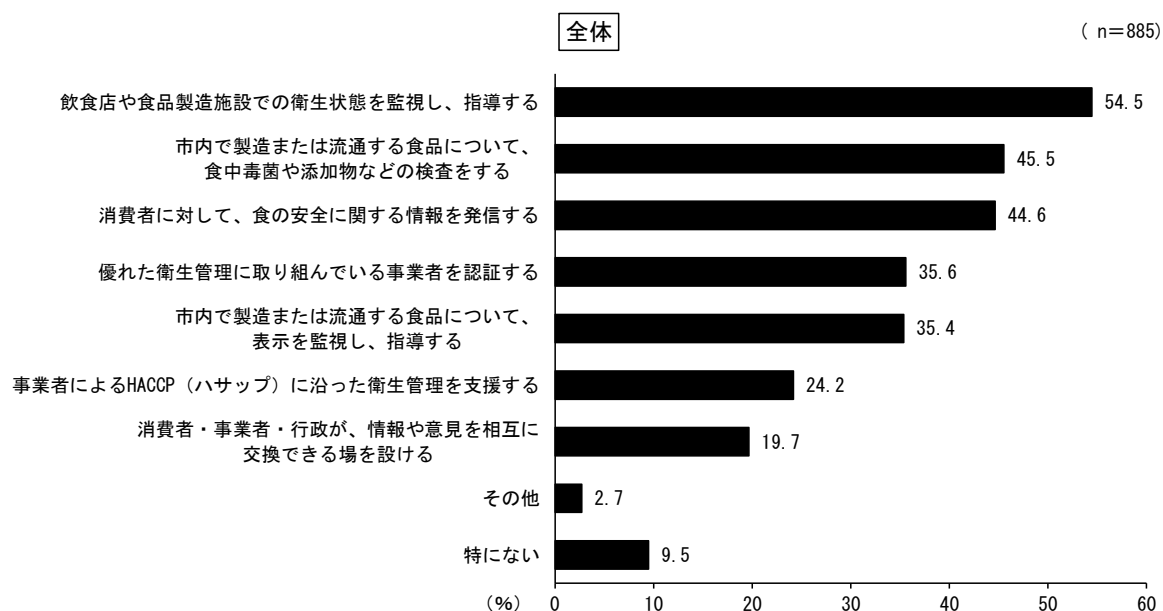


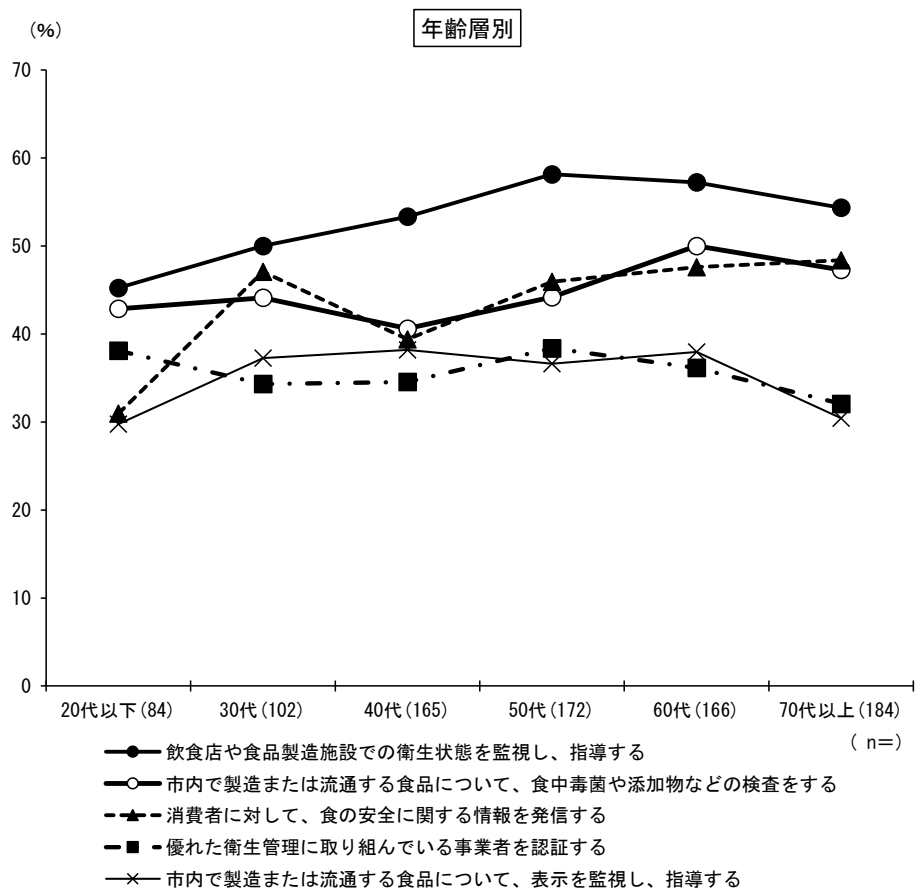
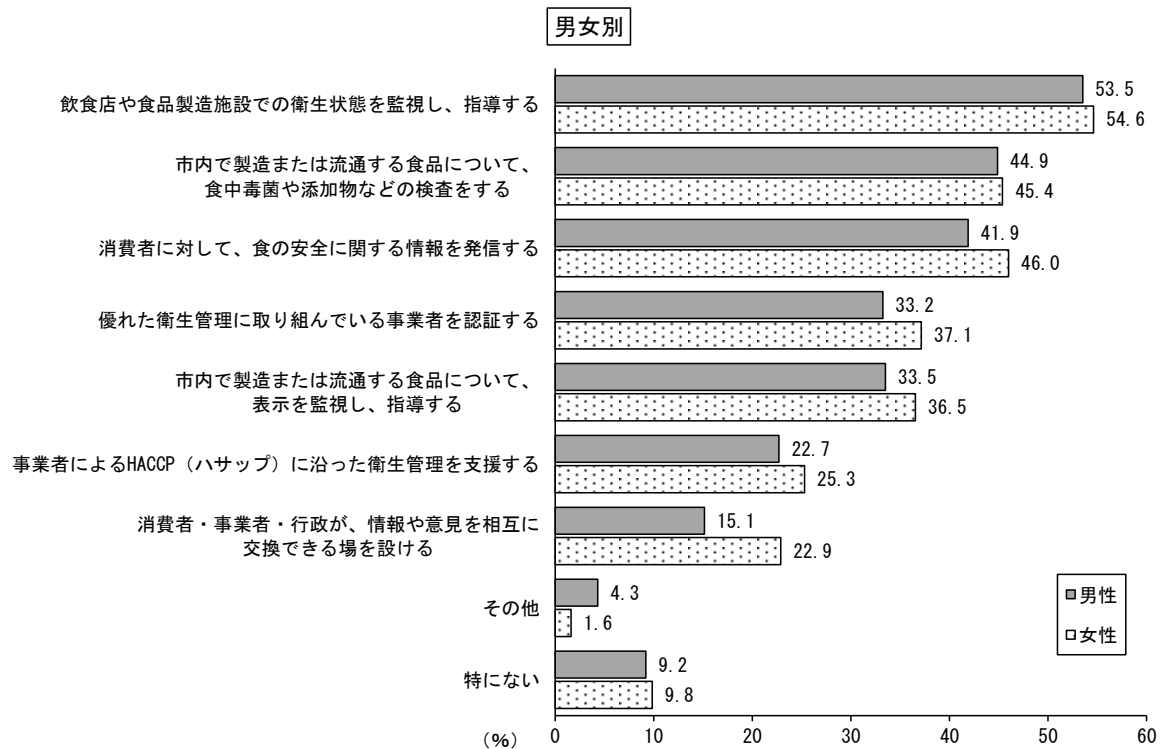
【問 11】あなたは、食の安全を高めるために、名古屋市がさらに強化すべき取り組みは何だと思いますか。（複数選択可）

食の安全を高めるために、名古屋市がさらに強化すべきと思う取り組みを尋ねたところ、「飲食店や食品製造施設での衛生状態を監視し、指導する」が 54.5% で最も多く、以下は「市内で製造または流通する食品について、食中毒菌や添加物などの検査をする」が 45.5%、「消費者に対して、食の安全に関する情報を発信する」が 44.6% の順であった。

男女別にみると、男女とも「飲食店や食品製造施設での衛生状態を監視し、指導する」が最も多かった。

年齢層別にみた場合も、すべての年齢層で「飲食店や食品製造施設での衛生状態を監視し、指導する」が最も多かった。



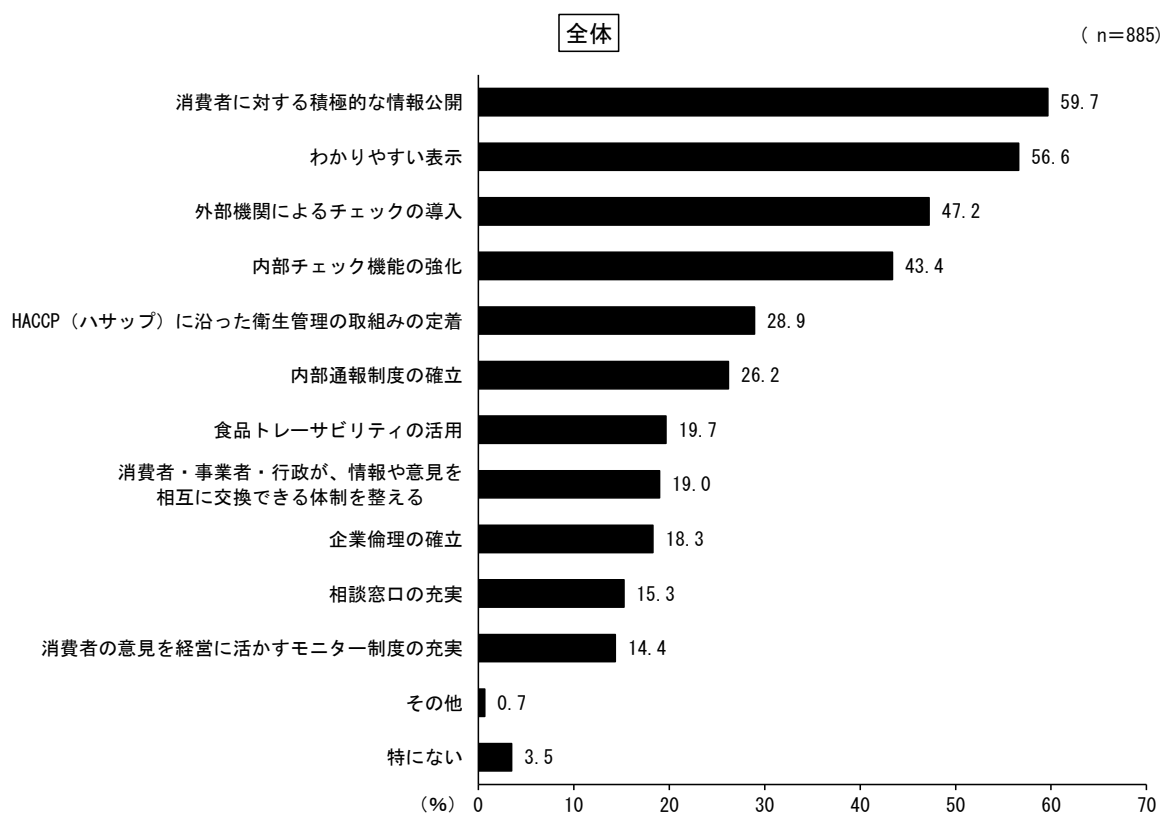


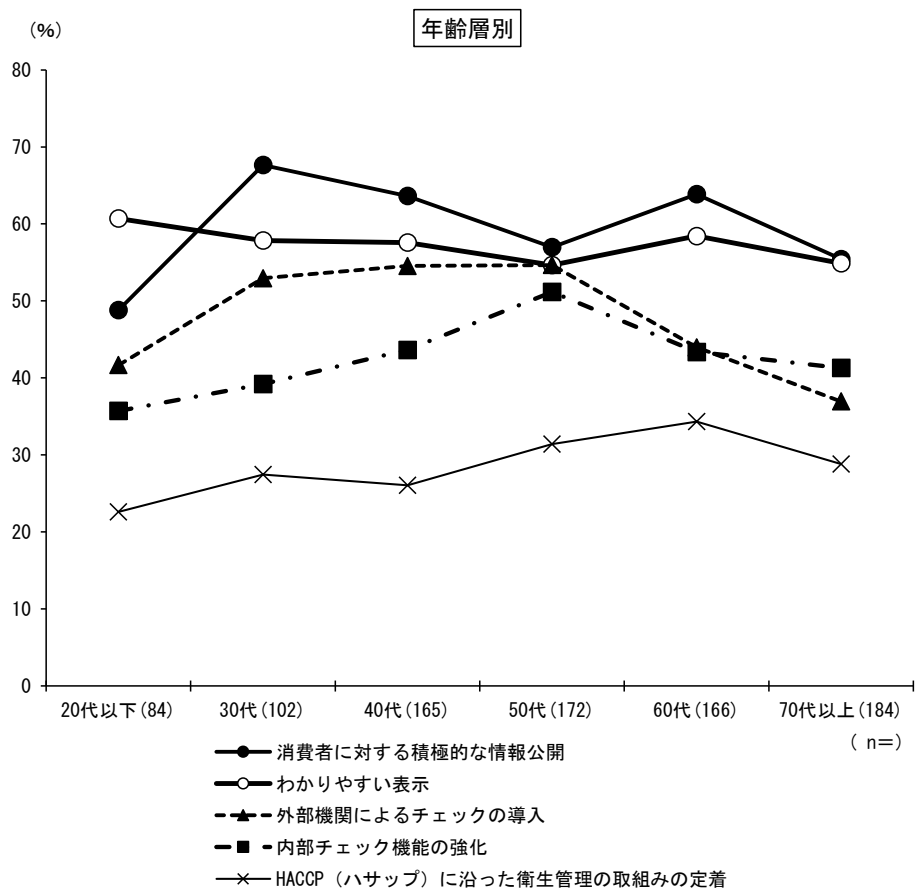
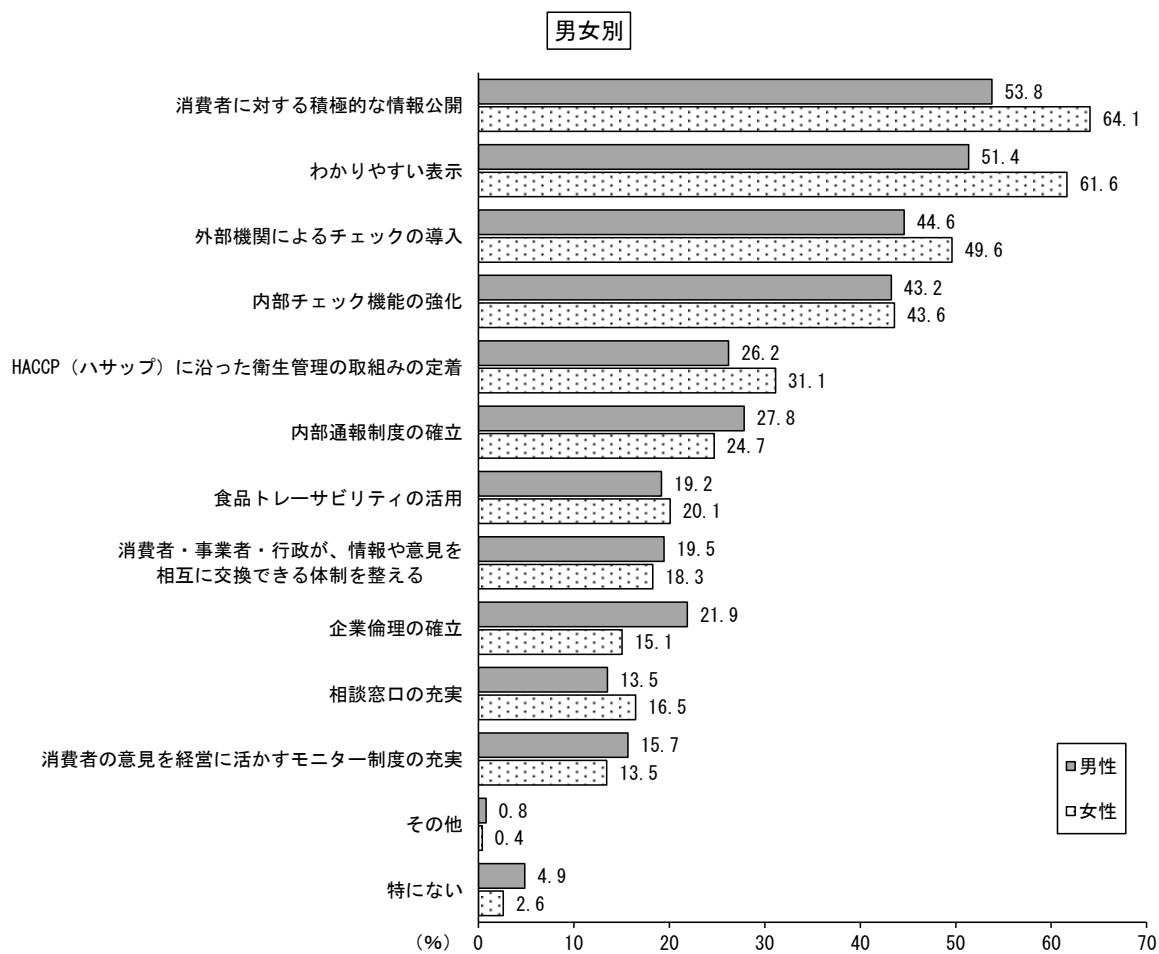
【問 12】あなたは、食の安全を高めるために、事業者が、特にどのような点に力をいれていくべきだと思いますか。（複数選択可）

食の安全を高めるために、事業者が特に力を入れるべきと思う事柄を尋ねたところ、「消費者に対する積極的な情報公開」が 59.7%で最も多く、以下は「わかりやすい表示」が 56.6%、「外部機関によるチェックの導入」が 47.2%の順であった。

男女別にみると、男女とも「消費者に対する積極的な情報公開」が最も多く、以下は「わかりやすい表示」、「外部機関によるチェックの導入」の順であった。

年齢層別にみると、30代～70代以上において「消費者に対する積極的な情報公開」が最も多かった。20代以下は「わかりやすい表示」が最も多かった。

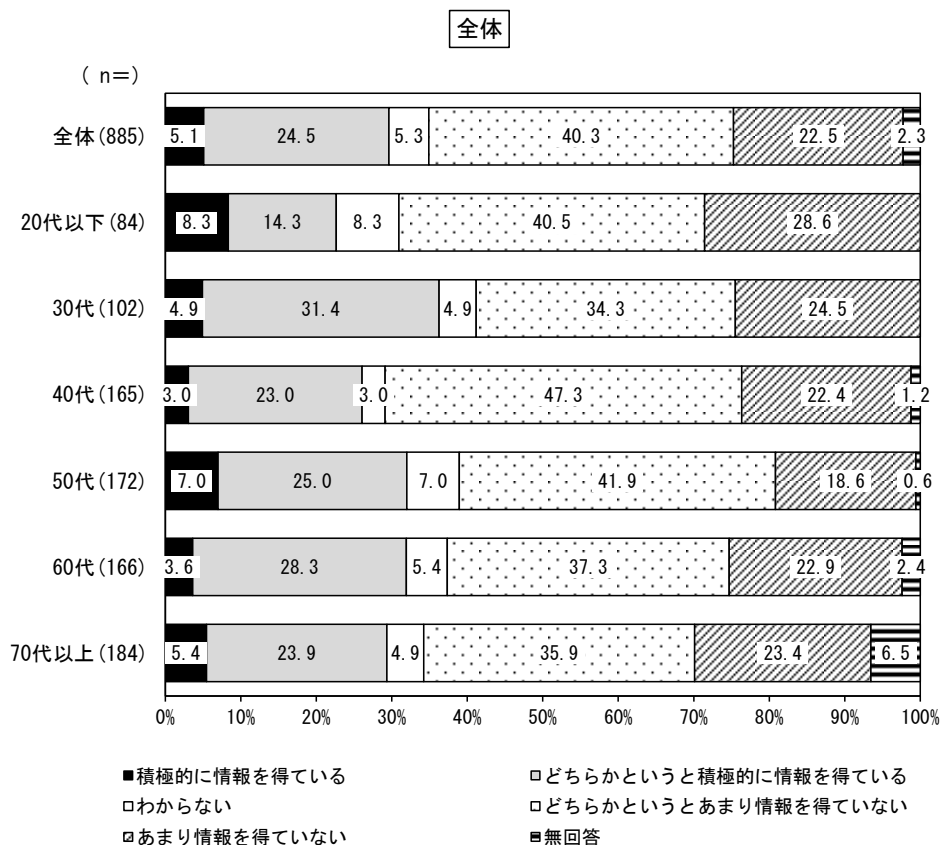




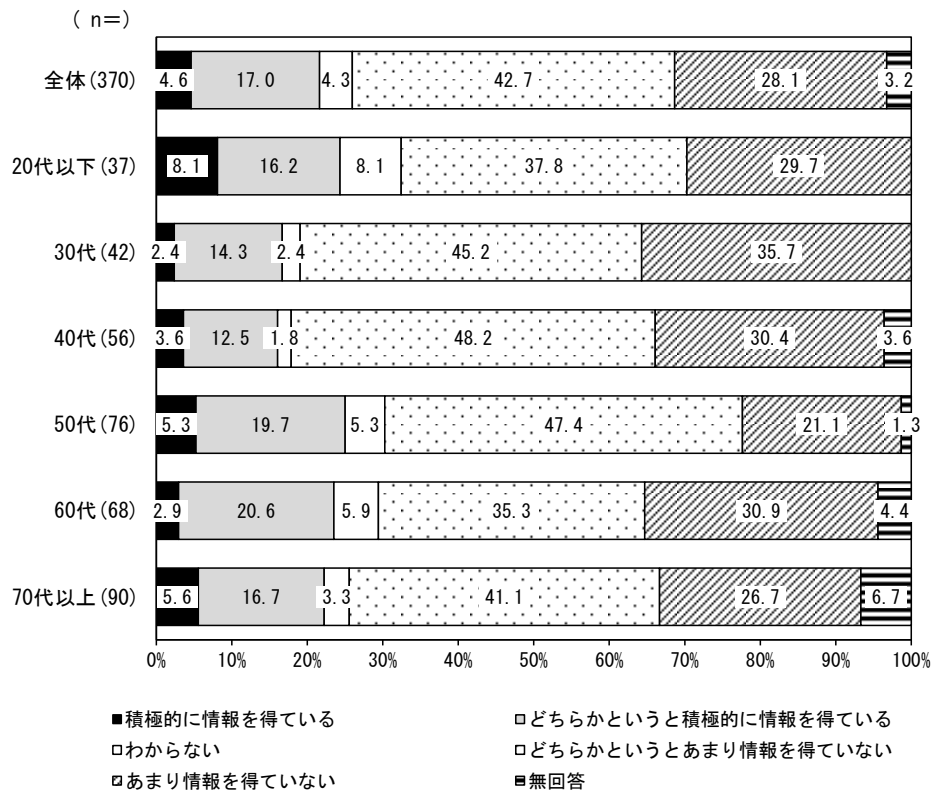
【問 13】あなたは、食の安全に関する情報を、どの程度得ていますか。（一つ選択）

食の安全に関する情報を、どの程度得ているか尋ねたところ、「積極的に情報を得ている」は 5.1%、「どちらかというと積極的に情報を得ている」は 24.5%、「わからない」は 5.3%、「どちらかというとあまり情報を得ていない」は 40.3%、「あまり情報を得ていない」は 22.5%であった。「積極的に情報を得ている」と「どちらかというと積極的に情報を得ている」を合わせた割合（以下、“情報を得ている人”の割合）は 29.6%、「どちらかというとあまり情報を得ていない」と「あまり情報を得ていない」を合わせた割合は 62.8%であった。

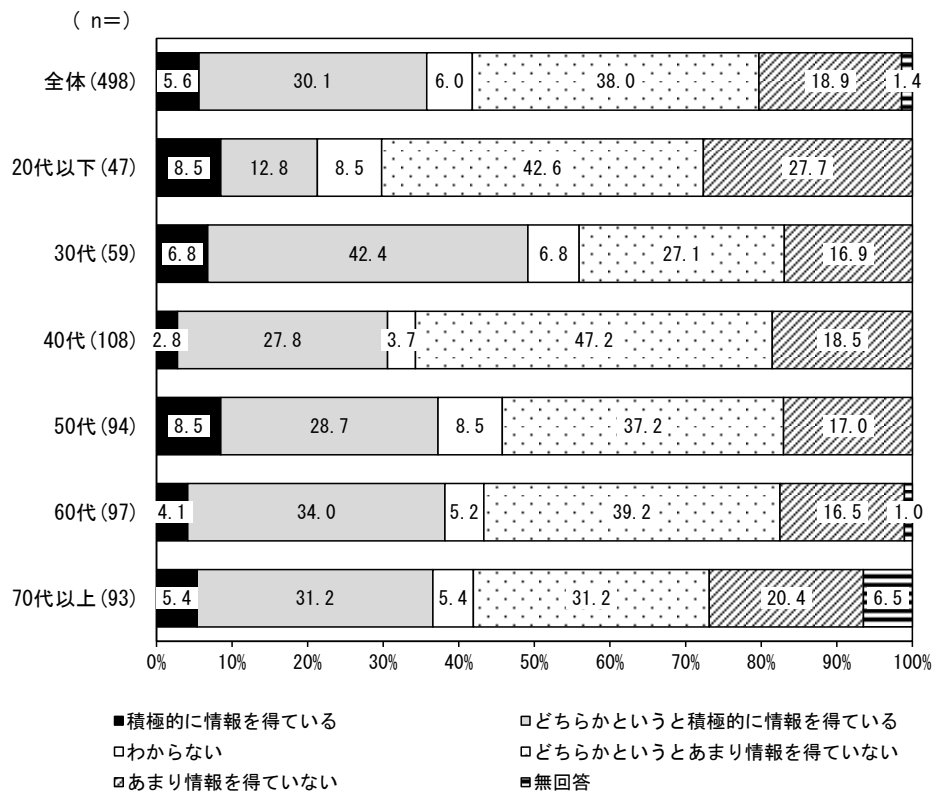
男女別にみると、“情報を得ている人”の割合は、男性全体 21.6%、女性全体 35.7%であり、女性全体の方が 14.1 ポイント高かった。年齢層と“情報を得ている人”の割合との間に明らかな関連はみられなかった。



男性



女性

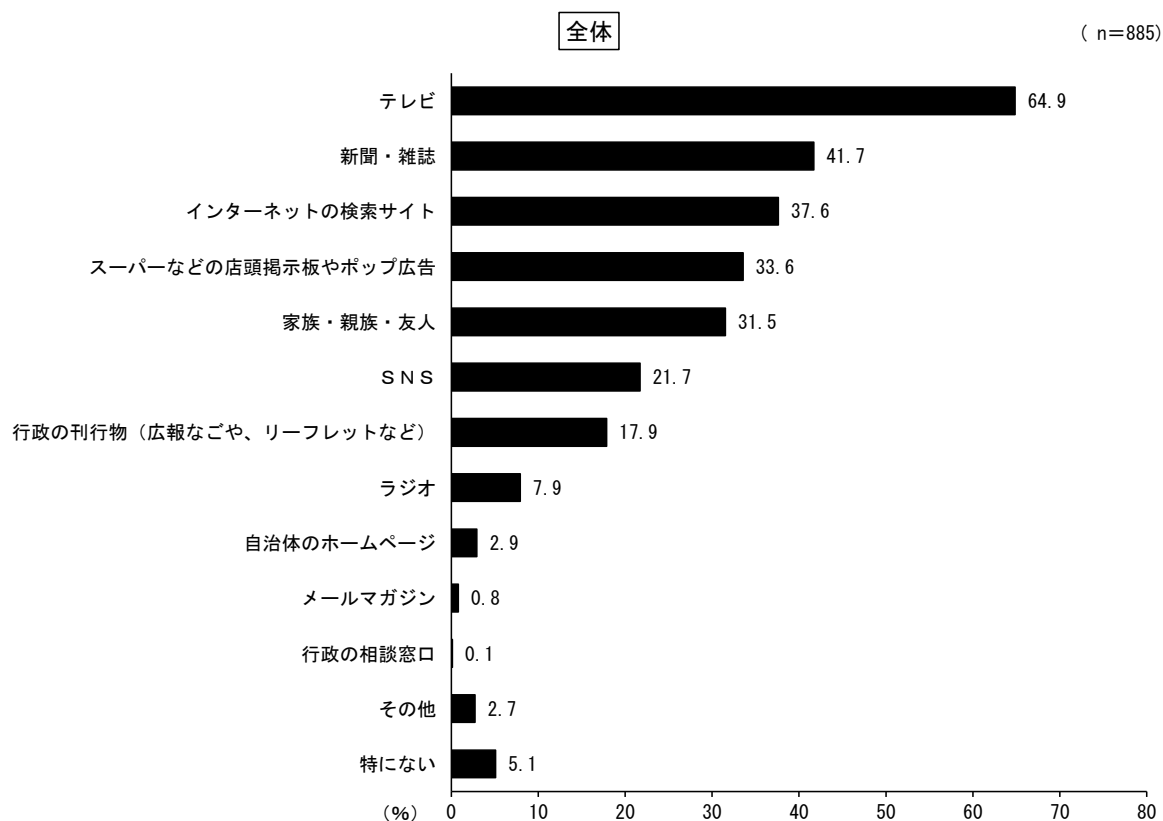


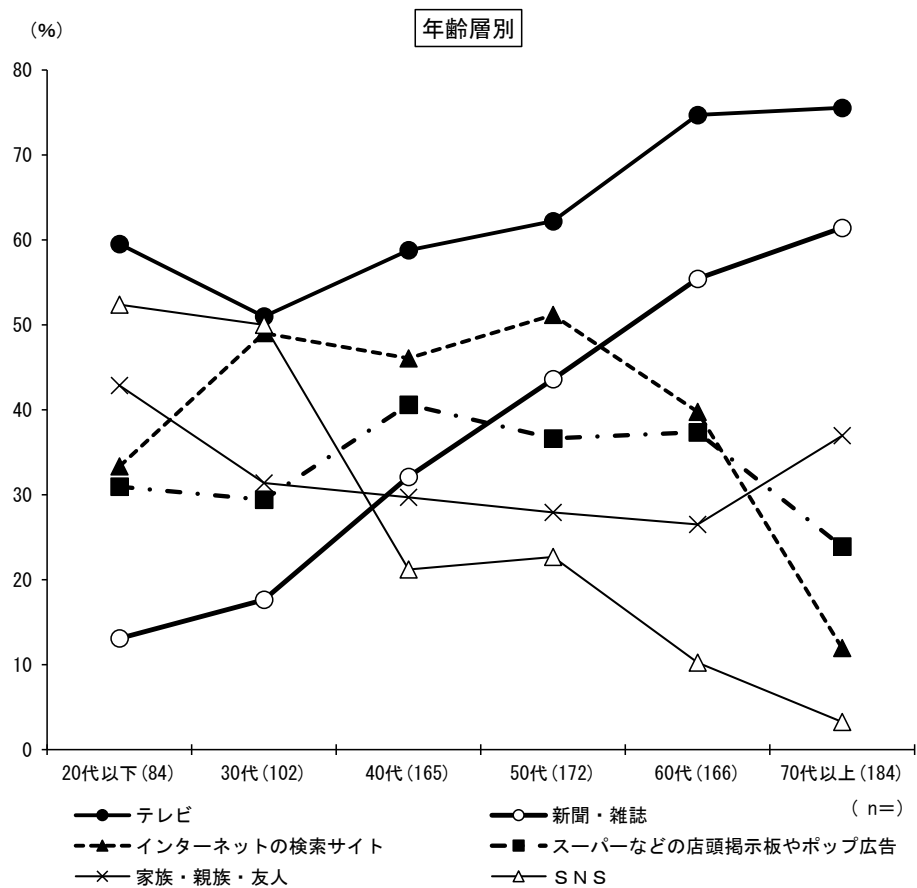
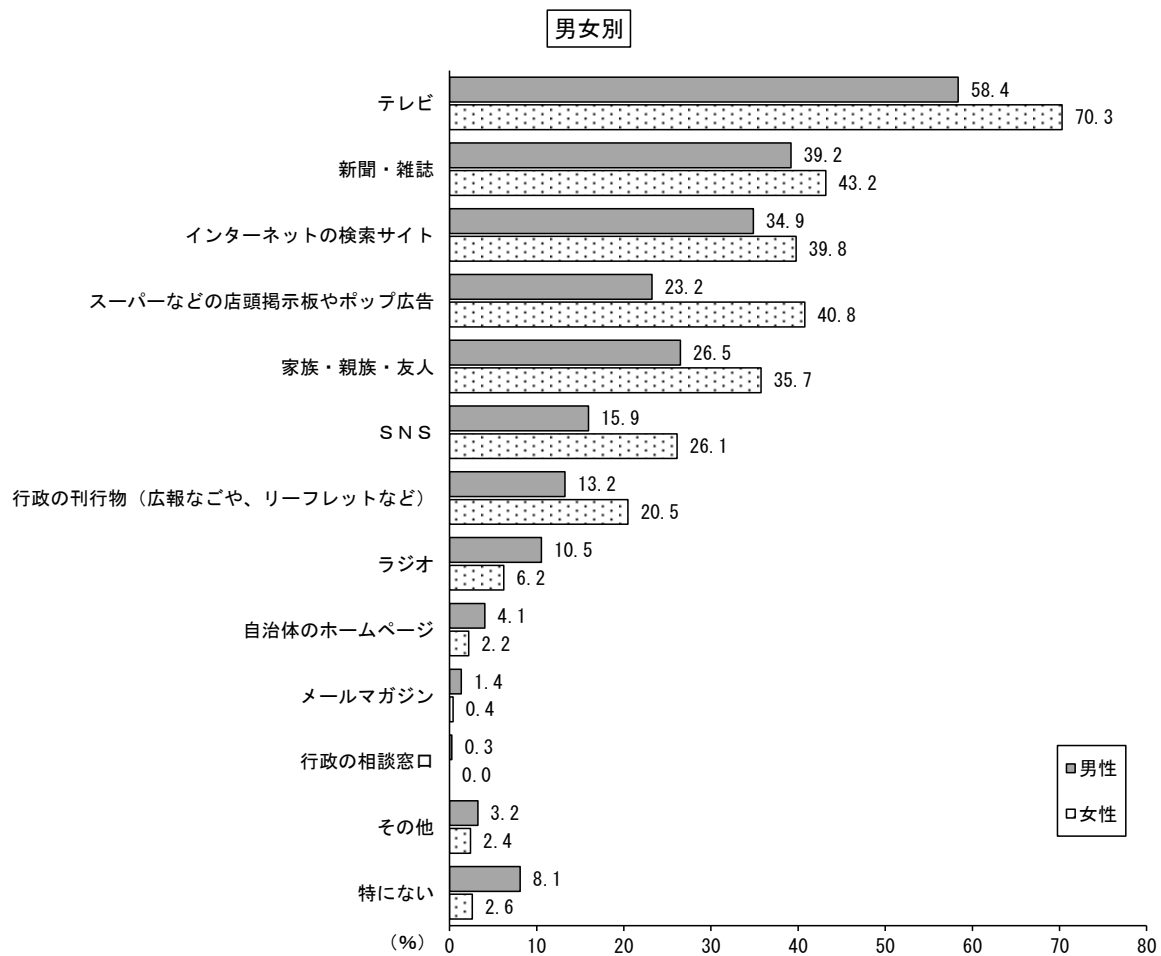
【問 14】あなたは、食の安全に関する情報を、普段どこから得ていますか。（複数選択可）

食の安全に関する情報を、普段どこから得ているか尋ねたところ、「テレビ」が 64.9%で最も多く、以下は「新聞・雑誌」が 41.7%、「インターネットの検索サイト」が 37.6%の順であった。

男女別にみると、男性全体では「テレビ」が最も多く、以下は「新聞・雑誌」、「インターネットの検索サイト」の順であった。一方、女性全体では「テレビ」が最も多く、以下は「新聞・雑誌」、「スーパーなどの店頭掲示板やポップ広告」の順であった。「スーパーなどの店頭掲示板やポップ広告」は、男性全体 23.2%、女性全体 40.8%であり、女性全体の方が 17.6 ポイント高かった。

年齢層別にみると、すべての年齢層で「テレビ」が最も多かった。「SNS」の割合は若年層ほど高くなっており、30 代では 50.0%、20 代以下では 52.4%であった。反対に「新聞・雑誌」の割合は高年層ほど高くなっており、60 代では 55.4%、70 代以上では 61.4%であった。



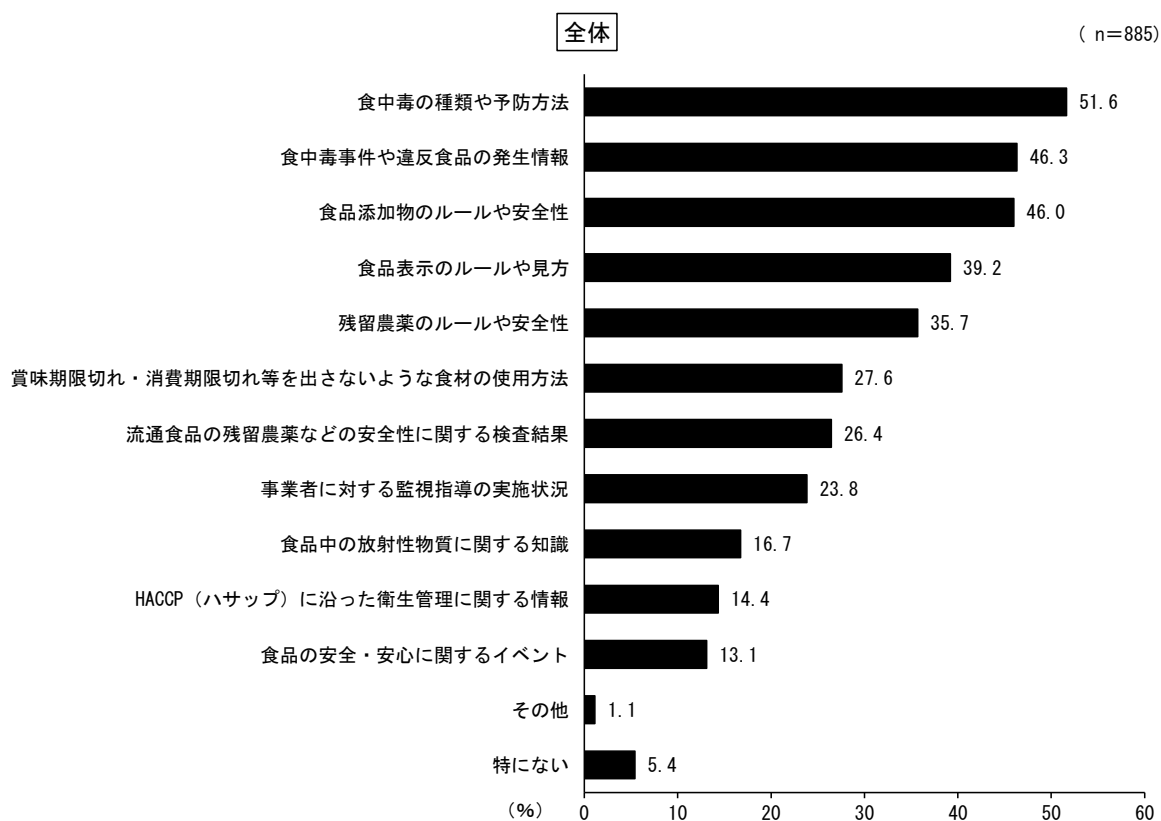


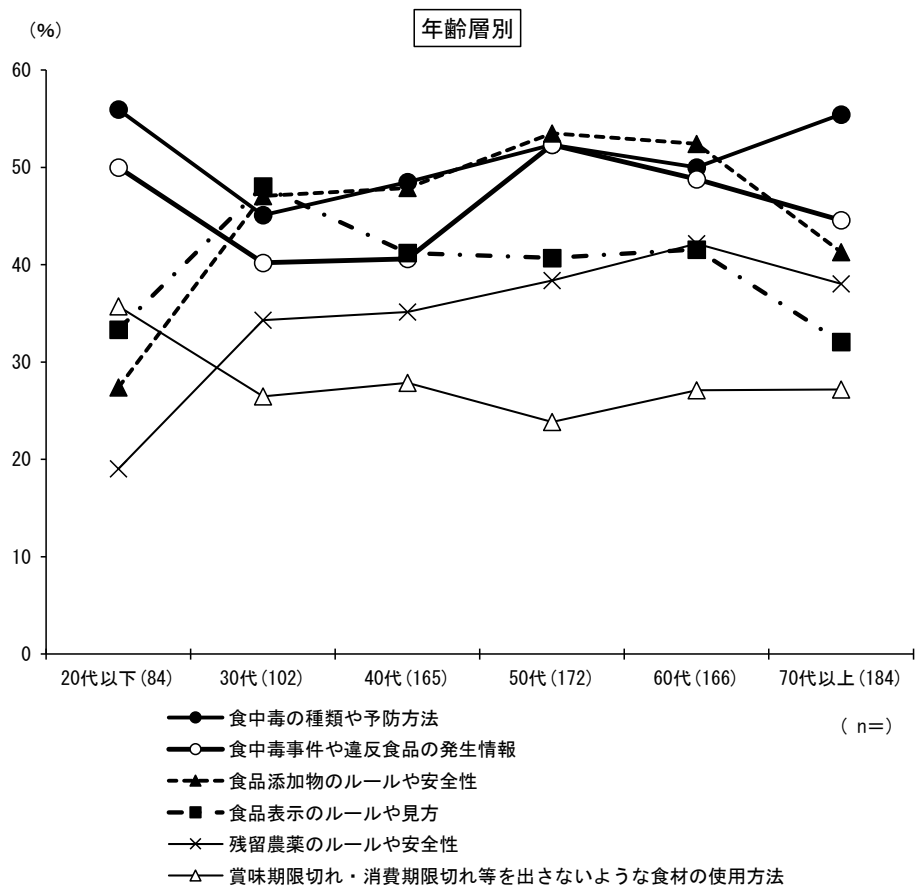
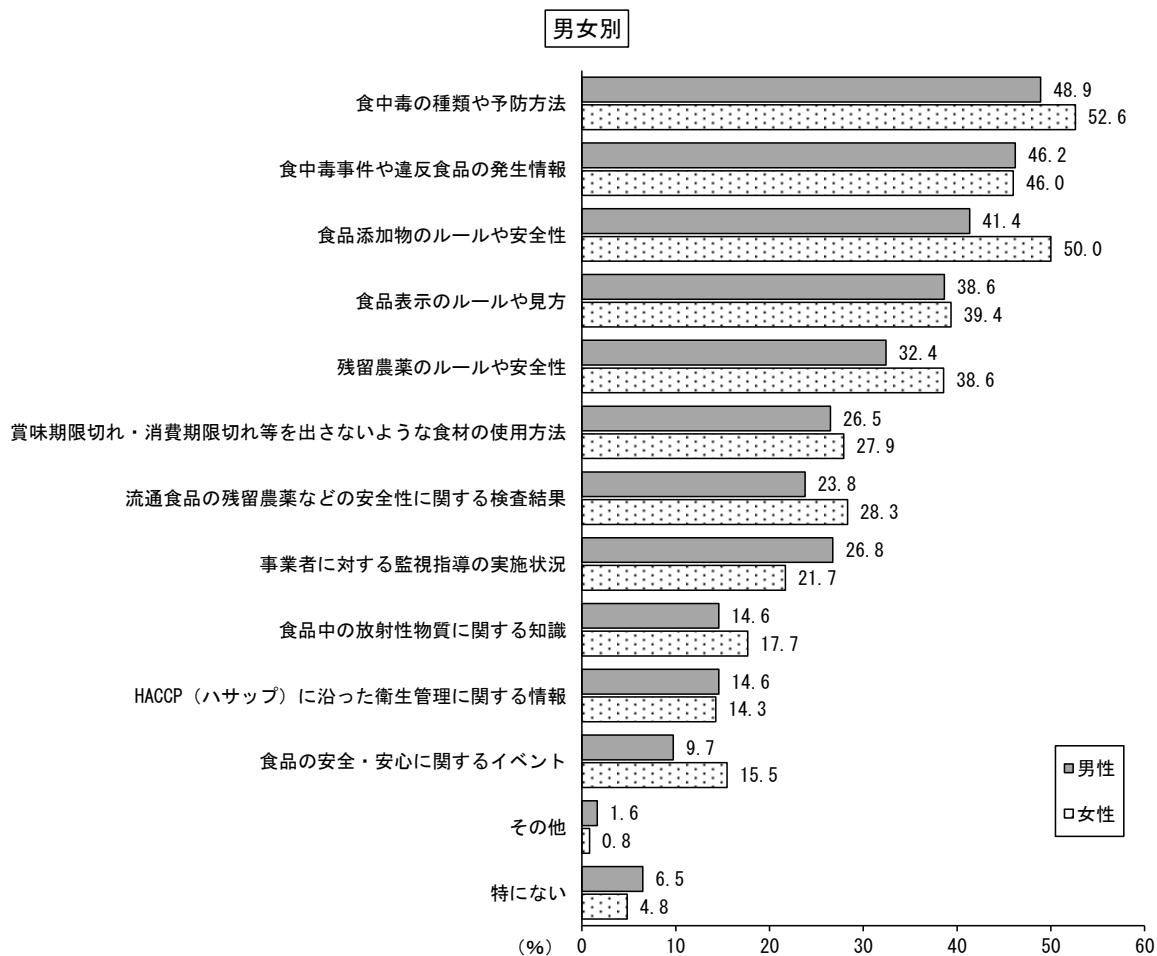
【問 15】名古屋市では、食の安全に関する情報の発信に取り組んでいます、あなたが市から特に発信してほしい内容はどれですか。（複数選択可）

食の安全に関する情報のうち、特に発信してほしい内容を尋ねたところ、「食中毒の種類や予防方法」が 51.6%で最も多く、以下は「食中毒事件や違反食品の発生情報」が 46.3%、「食品添加物のルールや安全性」が 46.0%の順であった。

男女別にみると、男性全体では「食中毒の種類や予防方法」が最も多く、以下は「食中毒事件や違反食品の発生情報」、「食品添加物のルールや安全性」の順であった。一方、女性全体では「食中毒の種類や予防方法」が最も多く、以下は「食品添加物のルールや安全性」、「食中毒事件や違反食品の発生情報」の順であった。

年齢層別にみると、「残留農薬のルールや安全性」の割合は 60 代をピークに高年層ほど高くなっていた。

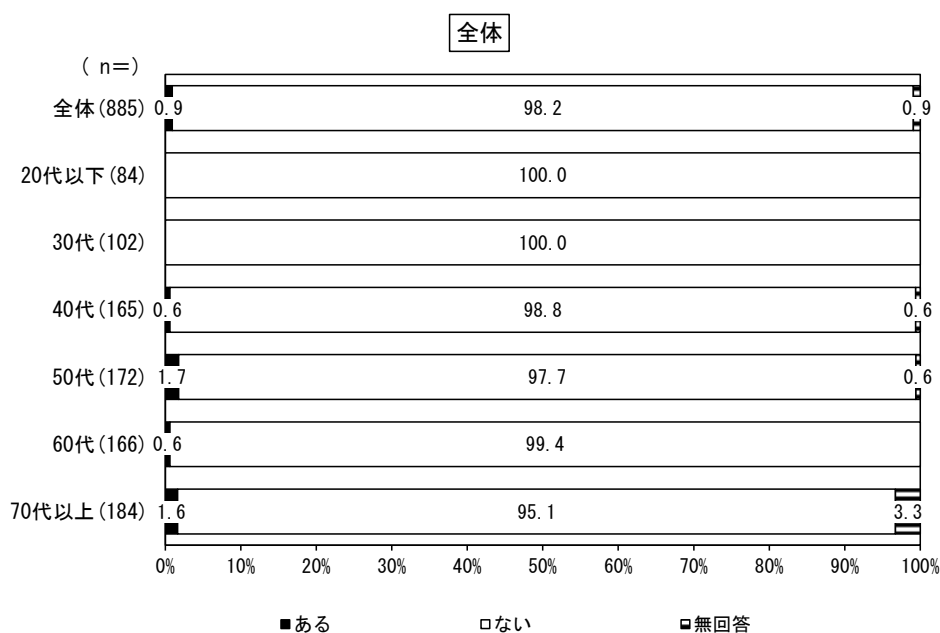


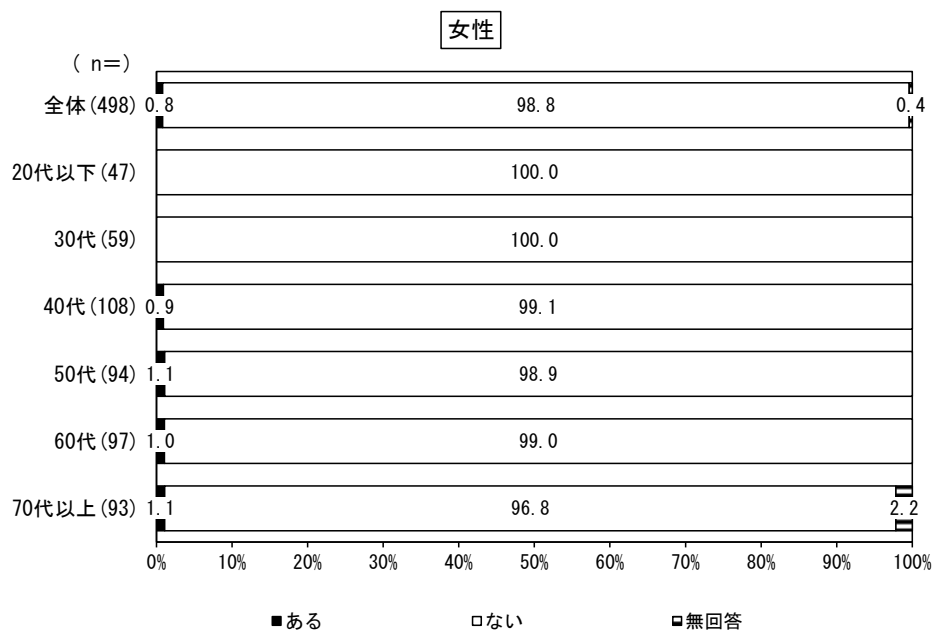
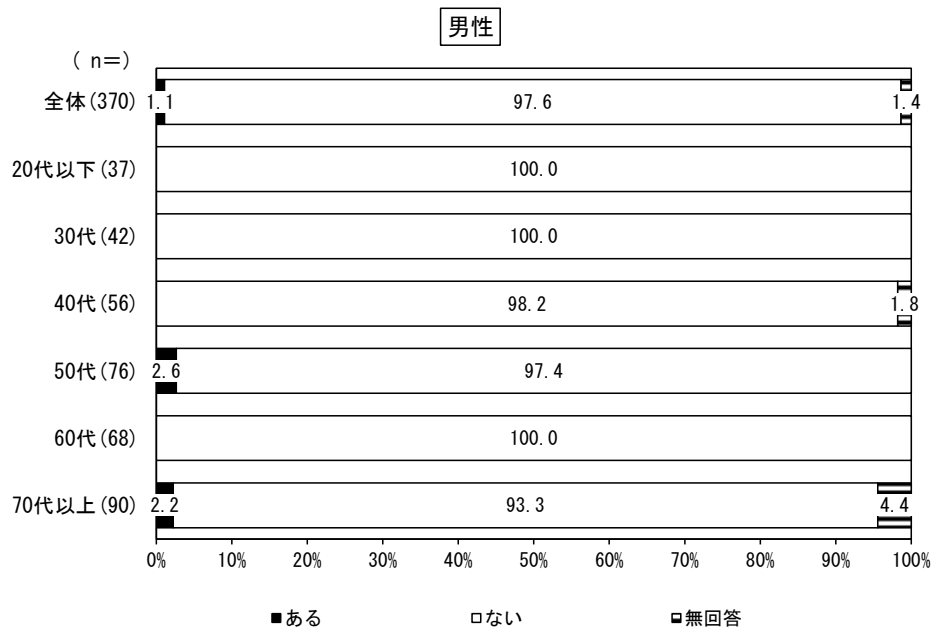


【問 16】 あなたは、保健所等（保健センター、消費生活センター、名古屋市よい食ダイヤルなど）
 に対し、食の安全に関する不安や疑問などを相談したことがありますか。（一つ選択）

保健所等に対し、食の安全に関する不安や疑問などを相談したことがあるか尋ねたところ、「ある」は 0.9%（8 人）、「ない」は 98.2%であった。年齢層別にみると、20 代以下及び 30 代では「ある」は 0%（0 人）であった。

男女別にみると、「ある」の割合は、男性全体 1.1%（4 人）、女性全体 0.8%（4 人）であった。男性では 20 代以下～40 代及び 60 代で、女性では 20 代以下～30 代で「ある」が 0 人であった。

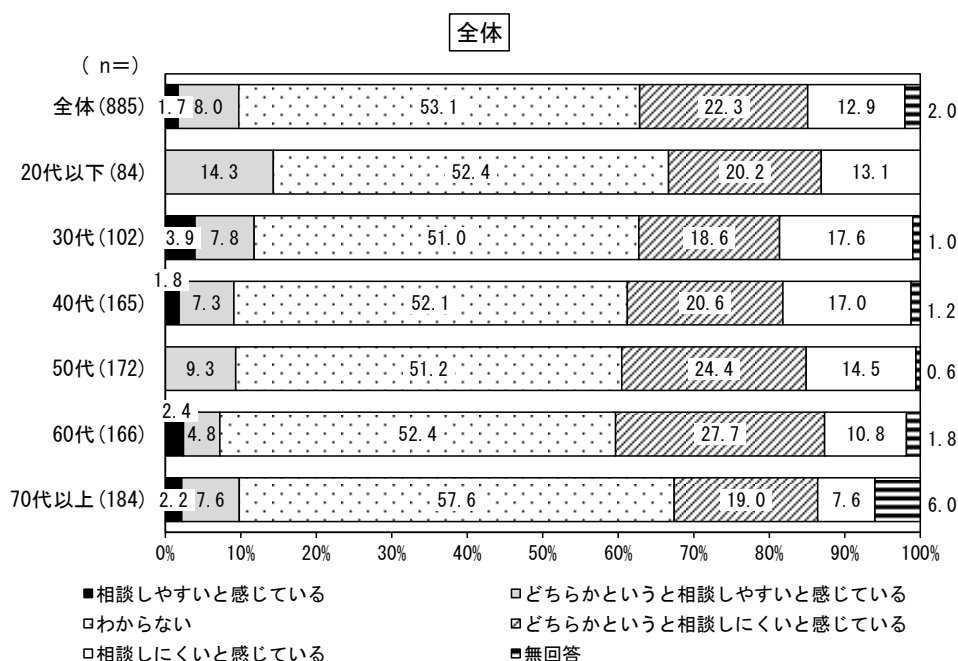


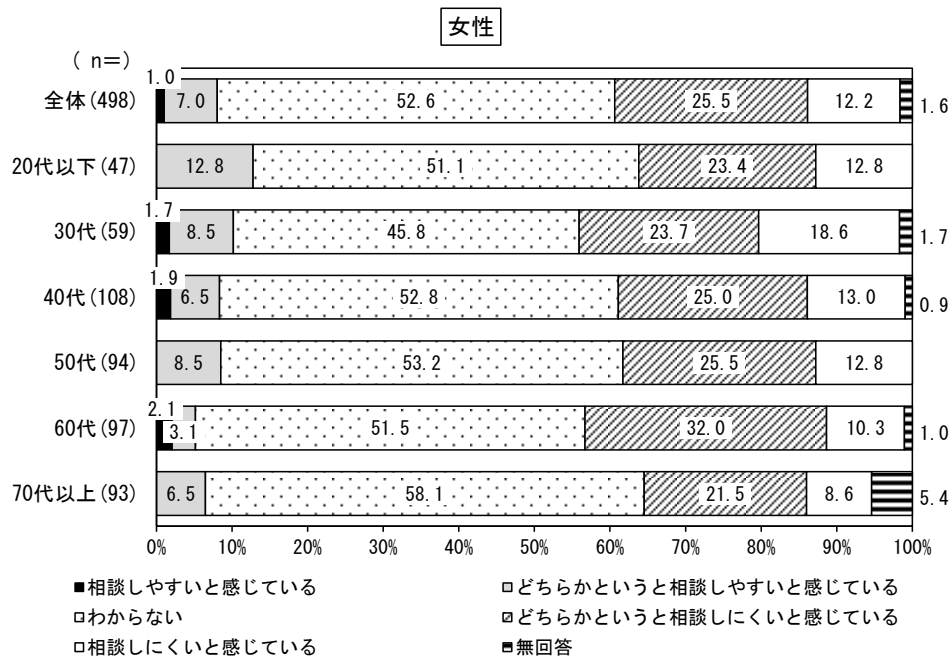
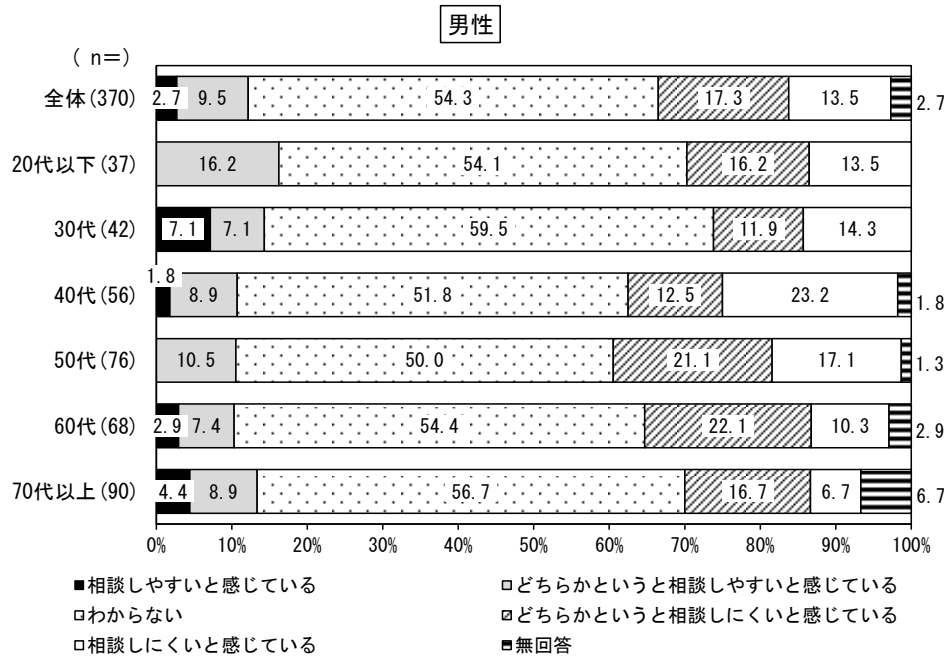


【問 17】あなたは、保健所等に対し、食の安全に関する不安や疑問などを相談しやすいと感じますか。(一つ選択)

保健所等に対し、食の安全に関する不安や疑問などを相談しやすいと感じるか尋ねたところ、「相談しやすいと感じている」は1.7%、「どちらかというと相談しやすいと感じている」は8.0%、「わからない」は53.1%、「どちらかというと相談しにくいと感じている」は22.3%、「相談しにくいと感じている」は12.9%であった。「相談しやすいと感じている」と「どちらかというと相談しやすいと感じている」を合わせた割合は9.7%、「どちらかというと相談しにくいと感じている」と「相談しにくいと感じている」を合わせた割合（以下、“相談しにくいと感じる人”の割合）は35.1%であった。

男女別にみると、“相談しにくいと感じる人”の割合は、男性全体30.8%、女性全体37.8%であり、女性全体の方が7.0ポイント高かった。年齢層別に男女を比較すると、“相談しにくいと感じる人”の割合は、すべての年齢層で女性の方が高かった。





【問 18】 問 17 で、「ウ」または「エ」と回答した方にお聞きします。

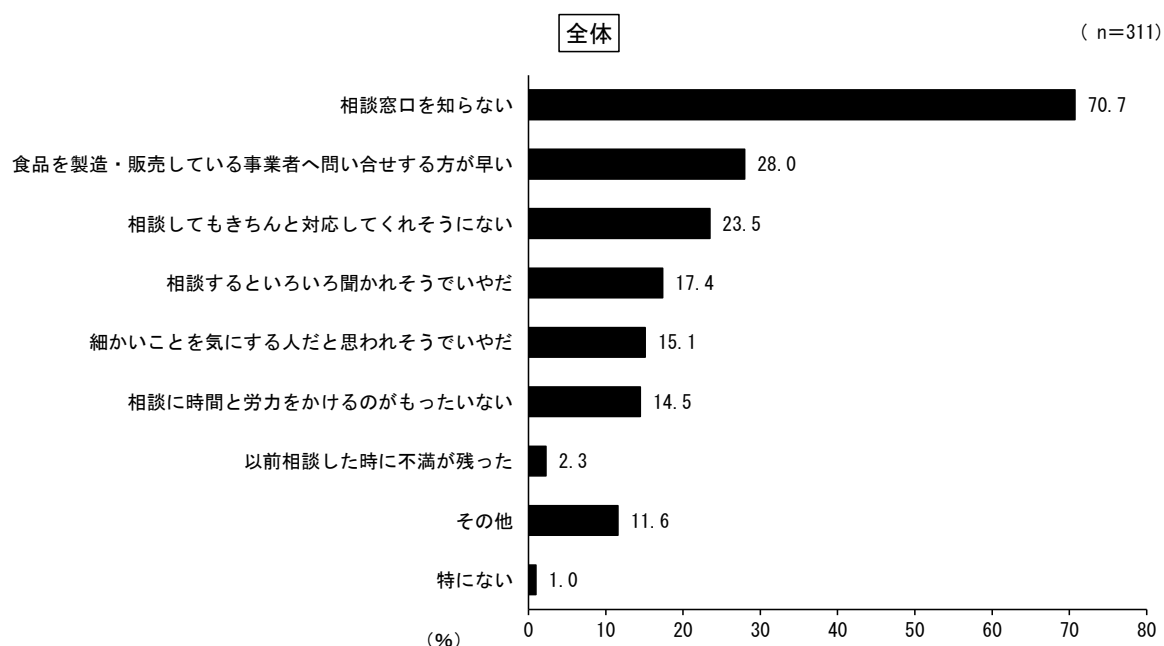
あなたが、相談しにくいと感じる理由はなんですか。(複数選択可)

問 17 で、「ウ」または「エ」と回答した 311 人に対して、相談しにくいと感じる理由を尋ねたところ、「相談窓口を知らない」が 70.7%で最も多く、以下は「食品を製造・販売している事業者へ問い合わせる方が早い」が 28.0%、「相談してもきちんと対応してくれそうにない」が 23.5%の順であった。

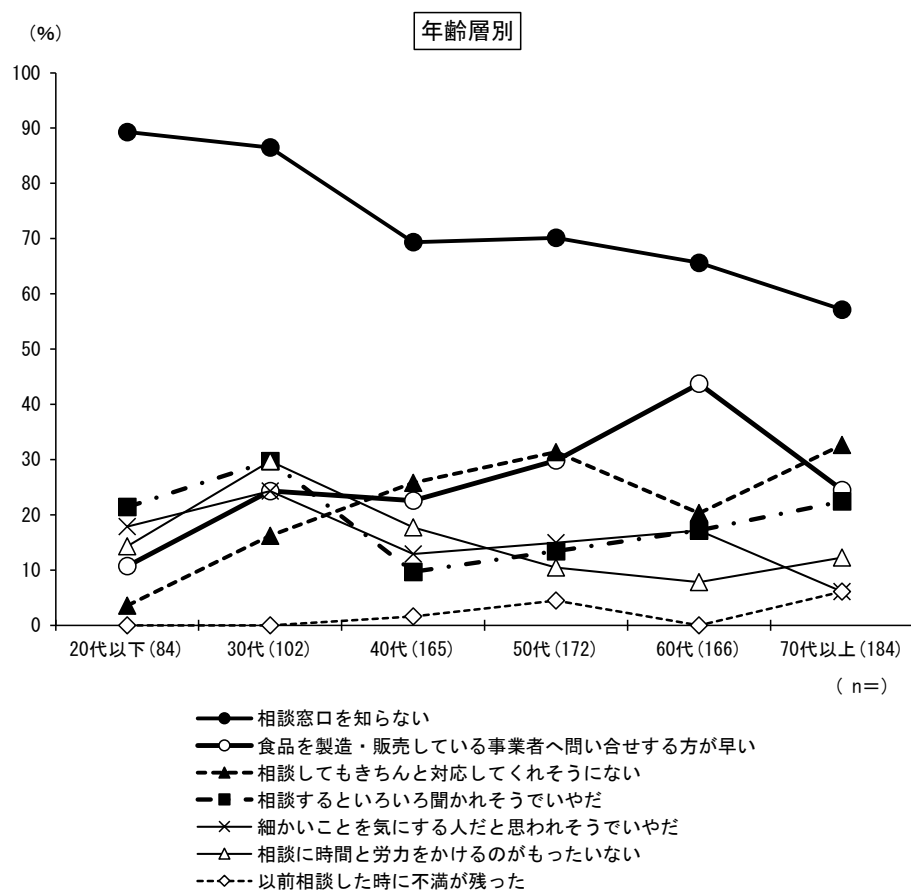
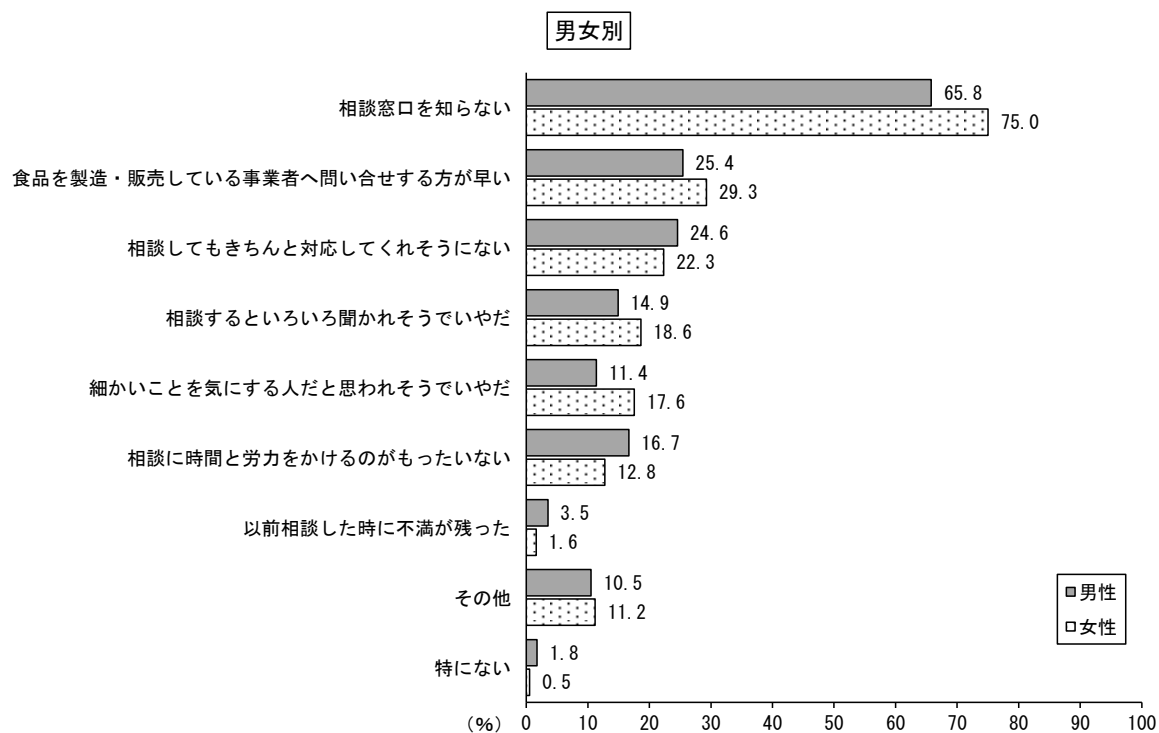
男女別にみると、男女とも「相談窓口を知らない」が最も多く、以下は「食品を製造・販売している事業者へ問い合わせる方が早い」、「相談してもきちんと対応してくれそうにない」の順であった。

年齢層別にみると、すべての年齢層で「相談窓口を知らない」が最も多かった。「相談窓口を知らない」と回答した人の割合は、若年層ほど高くなっていた。「食品を製造・販売している事業者へ問い合わせる方が早い」と回答した人の割合は、60 代をピークに、高年層ほど高くなる傾向がみられた。

なお、回答者全体 885 人に占める割合でみた場合は、「相談窓口を知らない」が 24.9%、「食品を製造・販売している事業者へ問い合わせる方が早い」が 9.8%、「相談してもきちんと対応してくれそうにない」が 8.2%であった。



注) 上図では、問 17 で、「ウ」または「エ」と回答した人のみを対象に集計している。



注) 上図では、問 17 で、「ウ」または「エ」と回答した人のみを対象に集計している。

問い合わせ先

名古屋市保健所健康部食品衛生課

電話番号：052-972-2648

メール：2648@kenkofukushi.city.nagoya.lg.jp